アカデミック・ライティング

担当教員 山口　真也・芳山紀子

対象学年 ２年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
3年生以降のゼミナール(必修科目)での研究活動(卒業研究)に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。
本授業を通して、①論理的な思考法にもとづく文章表現(ライティング)能力、②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力、③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力、④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力　の修得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	アカデミックワードと日常語の違い
2	●句読点の付け方・見やすい表記
3	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
4	●文の適切な長さと接続表現・文のねじれの解消
5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
6	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
7	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
8	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
9	●データの解釈・仮説の検証
10	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
11	○データ分析1 高度な関数を自在に操る
12	○データ分析2 3-D集計/統合機能
13	○データ分析3 自動集計機能/フィルタオプションの設定
14	○データ分析4 ピボットテーブル作成と活用
15	○データ分析5 マクロ機能/小テスト
16	○は芳山先生担当、●は山口の担当

【履修上の注意事項】
①4月2日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。
②無断欠席をしないこと。
③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。
④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。

【評価方法】
①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上　エクセルパートでは2回以上欠席すると不可)
②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある)
③欠席が１／３を超える者には単位は認定しない。

【テキスト】
適宜紹介する。

【参考文献】
適宜紹介する。

アカデミック・ライティング

担当教員 田場　裕規・芳山紀子

対象学年 ２年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
3年生以降のゼミナール(必修科目)での研究活動(卒業研究)に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。本授業を通して、①論理的な思考法にもとづく文章表現(ライティング)能力、②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力、③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力、④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】
○は芳山先生担当、●は田場の担当。

週	授　業　の　内　容
1	●ガイダンス・アカデミックワードと日常語の違い
2	○データ分析1 高度な関数を自在に操る
3	○データ分析2 3-D集計/統合機能
4	○データ分析3 自動集計機能/フィルタオプションの設定
5	○データ分析4 ピボットテーブル作成と活用
6	○データ分析5 マクロ機能/小テスト
7	●句読点の付け方・見やすい表記
8	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
9	●文の適切な長さと接続表現・文のねじれの解消
10	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成・（グループワーク①)
13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング（グループワーク②)
14	●データの解釈・仮説の検証
15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
16	

【履修上の注意事項】
①4月2日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。②無断欠席をしないこと。③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。

【評価方法】
①出席を重視する。②課題レポートの内容を評価する。③欠席が１／３を超える者に単位は認定しない。

【テキスト】
なし

【参考文献】
適宜紹介する。

アカデミック・ライティング

担当教員 桃原　千英子・芳山紀子

対象学年 ２年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
3年生以降のゼミナール(必修科目)での研究活動(卒業研究)に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。本授業を通して、①論理的な思考法にもとづく文章表現(ライティング)能力、②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力、③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力、④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】
○は芳山先生担当、●は桃原の担当

＜ライティング＞　1〜5回目が文章作成指導、11〜15回目がプレレポート作成
＜Excel＞　6〜10回目

週	授業の内容
1	●アカデミックワードと日常語の違い
2	●句読点の付け方・見やすい表記
3	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
4	●文の適切な長さと接続表現・文のねじれの解消
5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
6	○データ分析1 高度な関数を自在に操る
7	○データ分析2 3-D集計/統合機能
8	○データ分析3 自動集計機能/フィルタオプションの設定
9	○データ分析4 ピボットテーブル作成と活用
10	○データ分析5 マクロ機能/小テスト
11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
14	●データの解釈・仮説の検証
15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
16	予備

【履修上の注意事項】
①4月2日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。
②無断欠席をしないこと。
③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。
④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。

【評価方法】
①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可)
②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある)
③欠席が１／３を超える者には単位は認定しない。

【テキスト】
適宜紹介する。

【参考文献】
適宜紹介する。

アジア太平洋文化論

担当教員 -島袋　盛世

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本語を取り巻くアジア諸国の文化、特に「ことば」を中心に外観する。アジアの諸言語を文字、語彙、文法、音声や表現などに焦点をあて、アジアの言語が日本語に与えた影響、また、日本語がそれらの諸言語に与えた影響など言語・文化接触によって生じた特徴をとらえディスカッションをする。日本語も含め、環太平洋諸国、アジア諸国の言語を比較し、それぞれの言語・文化の特徴を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	講義の概要の説明
2	アジアの諸言語
3	言語の分類と系統
4	日本語の特徴
5	琉球語の特徴
6	中国語の特徴
7	韓国語の特徴
8	中間試験
9	台湾の言語の特徴
10	他のアジア言語について
11	環太平洋の諸言語1
12	環太平洋の諸言語2
13	環太平洋の諸言語3
14	環太平洋の諸言語とアジアの諸言語の比較
15	環太平洋の諸言語とアジアの諸言語ディスカッション（復習）
16	期末試験

【履修上の注意事項】
欠席回数が全授業回数の３分の１を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】
中間試験　45%
期末試験　45%
授業への参加および宿題10%

【テキスト】
特になし。プリントを配布する。

【参考文献】
便宜紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	演習の進め方	17	発表する（８）
2	調べる（１）	18	発表する（９）
3	調べる（２）	19	発表する（１０）
4	調べる（３）	20	発表する（１１）
5	調べる（４）	21	発表する（１２）
6	分析する（１）	22	発表する（１３）
7	分析する（２）	23	発表する（１４）
8	分析する（３）	24	発表する（１５）
9	分析する（４）	25	ゼミ論集の制作（１）
10	発表する（１）	26	ゼミ論集の制作（２）
11	発表する（２）	27	ゼミ論集の制作（３）
12	発表する（３）	28	ゼミ論集の制作（４）
13	発表する（４）	29	まとめ（１）
14	発表する（５）	30	まとめ（２）
15	発表する（６）	31	
16	発表する（７）		

【履修上の注意事項】
二月にゼミ論集の完成を予定している。
毎回、小レポートの提出を義務づける。

【評価方法】
発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
そのつど紹介する。

【参考文献】
そのつど紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 大城　朋子

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】
1.ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2.学術論文を読み込む
3.テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4.調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】
積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験してほしい。

【評価方法】
取り組みに対する姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】
宇佐美まゆみ『言葉は社会を変えられる』明石書店
他論文や資料を適宜使用する。

【参考文献】
テーマにそって各自で選択した論文

演習Ⅲ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
基本的には近現代の文学テクストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。 一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】
1　ゼミ運営の方針説明
2　レジュメの作り方
3　 調査、資料収集の方法
4　学術論文のスタイル
5　発表及び討議
6　 ゼミ論文の作成
7　 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】
夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】
①発表　②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度　③出席

【テキスト】
プリント使用。

【参考文献】
取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅲ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は、松尾芭蕉『おくの細道』を扱う。芭蕉自筆本等の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。″

【授業の展開計画】
第１回　ガイダンス
第２回～第４回　翻字演習
第５回～第１４回　レポート発表
　・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。
　・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などの関連する事項を調べること
。
　・調査結果に基づく通釈、考説であること。
第１５回～第１６回　注釈書（ゼミ論集）の編集作業。″

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】
①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】
テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】
授業内で指示する。
『字典かな　新装版』（笠間書院）￥７８０″

演習Ⅲ

担当教員 兼本　敏

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
これまで培ってきた大学生として有すべき技能を駆使してゼミ論を書いてもらう。プレゼンを行い論文の完成度を高めてもらう。

【授業の展開計画】
各自が設定したテーマに沿って、個別の対応になるが、クラス共通の授業展開は次のとおりである。

前半では、比較・対照について実際の論文を読みながら学習します。

１．各自の設定したテーマについて発表
２．発表されたテーマに対する質疑と提案
３．先行研究を含む資料収集の具体的な報告
４．ゼミ論の完成までの具体的レジメの提出

※　実際に異文化接触を体験してもらう。（海外ゼミ体験を企画実行）

【履修上の注意事項】
ゼミは講義とは違い、教員が教えるのではなく、皆さんと一緒に疑問を討論していくものです。
各自の進捗状況によって疑問が異なるので積極的に質疑を行うこと。
教員とは講義時間外のオフィス・アワーを活用すること。

朝方になる訓練と体調管理（異文化体験と社会人としての準備）

【評価方法】
積極性、具体性、明瞭さを基に評価します。

【テキスト】
特に指定はしませんが、論文の書き方に関する書籍を購読するように。

【参考文献】
各自のテーマによって異なるので適宜アドバイスします。

演習Ⅲ

担当教員 狩俣　恵一

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
演習Ⅲの４年次生は、卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらう。発表の内容は琉球文学を対象とする。ゼミナールⅠの３年次生は４年次生の発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。
　琉球文学には、琉球士族社会で育まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することもできるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話もまた本土との繋がりが深いので、そのことを考慮して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】
第１回　発表についての説明
　１．各発表者の発表日の確定
　２．発表資料等作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
　３．発表資料はパソコンで作成すること。
　４．発表の後には、一人一人が必ず質問や意見などを述べること。

第２回～第15回　４年次生全員が各自のテーマで発表し、質疑応答を行う。

第16回　全体の総括と試験

【履修上の注意事項】
１．発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
２．３分の１以上を欠席した学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】
出席点・発表資料・発表内容・質疑の総合評価。

【テキスト】
なし

【参考文献】
『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅲ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球語会話ⅠⅡ」「琉球語学特講ⅠⅡ」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。 また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅲ

担当教員 山口　真也

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。
4年生は、新ゼミ生(3年生)のチューターとして、各自の卒論研究の中間報告を行うとともに、3年生によるグループ討論、研究テーマ決定、文献調査、テーマ発表において随時アドバイスを行うことで、卒業研究に必要となる知識、技能を再確認するとともに、プレゼンテーションスキルと協働意識を身につけることを目的とします。

【授業の展開計画】
各回の内容はゼミナールＩと同じです。

【履修上の注意事項】
演習Iと同じ。

【評価方法】
演習Iと同じ。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
適宜指示する。

演習Ⅲ

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。
生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。
４年生は、３年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ
2	卒論：執筆スケジュールの組み方
3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定
4	卒論：資料・情報の収集方法
5	卒論：論文の構成方法について
6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答
7	テーマと方法論の報告／個別指導①
8	テーマと方法論の報告／個別指導②
9	テーマ・方法論の発表／個別指導③
10	テーマ・方法論の発表／個別指導④
11	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導①
12	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導②
13	卒論内容の発表／個別指導①
14	卒論内容の発表／個別指導②
15	卒論内容の発表／個別指導③
16	まとめ

【履修上の注意事項】
各自のテーマ設定に基づき、論文作成作業を着実に進めること。

【評価方法】
出席状況と卒論の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】
設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】
初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。
フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。
音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】
「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球語会話ⅠⅡ」「琉球語学特講ⅠⅡ」の受講を推奨します。
年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。 また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】
出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】
その都度指示します。

【参考文献】
その都度指示します。

演習Ⅳ

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。
生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。
４年生は、３年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	卒論：中間発表／個別指導①
3	卒論：中間発表／個別指導②
4	卒論：中間発表／個別指導③
5	卒論：中間発表／個別指導④
6	論文執筆：個別指導①
7	論文執筆：個別指導②
8	論文執筆：個別指導③
9	論文執筆：個別指導④
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥
16	卒業論文提出

【履修上の注意事項】
各自のテーマ設定に基づき、論文作成の後期段階を着実に進めること。
論文発表時には、レジュメを準備・配布し、口頭による丁寧な補足説明をおこなうこと。

【評価方法】
出席状況と卒論の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】
設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 山口　真也

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。4年生は、チューターとして、グループ学習時に様々なアドバイスを与え、さらに、3年生による研究発表の準備や発表当日の進行をサポートすることで、卒業研究に必要となる基礎的な知識、技能を再確認するとともに、協働意識とプレゼンテーションスキル、司会進行方法、討論方法など、社会人として必要となる各種技能を習得することを目的とします。

【授業の展開計画】
各回の内容はゼミナールⅡと同じです。

【履修上の注意事項】
ゼミナールIIと同じ。

【評価方法】
ゼミナールIIと同じ。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
適宜指示する。

演習Ⅳ

担当教員 狩俣　恵一

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
３年次生が『琉歌百控』をテキストとして発表を行うが、４年次生は３年次生の発表の問題点を指摘し、内容を深めるための質問を行う。
発表者は琉歌の解釈をしたうえで、その問題点を発見しテーマを定めて発表資料を作成する。琉歌は、本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、本土の和歌や歌謡と比較することによって、琉歌の特質を明らかにするようにつとめること。

【授業の展開計画】
第１回　発表方法についての説明
１．発表日の確定
２．発表資料作成に当たって指導を希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
３．発表レジュメには、①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳、②語釈（琉歌の語彙及び文法的な解釈）、③発表テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）を『琉歌全集』『琉歌大成』などを資料とすること。また、必要に応じて作者・時代背景などにも触れること。
４．発表資料はパソコンで作成すること。
５．発表を聞く学生は、質問または感想を述べて発表者と討論すること。

第２回～第15回　各発表者は『琉歌百控』の歌番号順に４種づつ発表し、討論する。

第16回　全体のまとめと試験

【履修上の注意事項】
１．指導を受けることを希望する発表者は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
２．発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
３．３分の１以上の欠席者は、原則として単位を認めない。

【評価方法】
出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】
『琉歌百控』

【参考文献】
『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅳ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
　基本的には近現代の文学テクストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。 一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】
１　ゼミ運営の方針説明
２　レジュメの作り方
３　調査、資料収集の方法
４　学術論文のスタイル
５　発表及び討議
６　ゼミ論文の作成
７　ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】
夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】
①発表　②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度　③出席

【テキスト】
プリント使用。

【参考文献】
取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅳ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げげながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	演習の進め方	17	発表する（８）
2	調べる（１）	18	発表する（９）
3	調べる（２）	19	発表する（１０）
4	調べる（３）	20	発表する（１１）
5	調べる（４）	21	発表する（１２）
6	分析する（１）	22	発表する（１３）
7	分析する（２）	23	発表する（１４）
8	分析する（３）	24	発表する（１５）
9	分析する（４）	25	ゼミ論集の制作（１）
10	発表する（１）	26	ゼミ論集の制作（２）
11	発表する（２）	27	ゼミ論集の制作（３）
12	発表する（３）	28	ゼミ論集の制作（４）
13	発表する（４）	29	まとめ（１）
14	発表する（５）	30	まとめ（２）
15	発表する（６）	31	
16	発表する（７）		

【履修上の注意事項】
二月にゼミ論集の完成を予定している。
毎回、小レポートの提出を義務づける。

【評価方法】
発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
そのつど紹介する。

【参考文献】
そのつど紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 兼本　敏

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
前期で作成提出したゼミ論の完成を目指します。
自己の責任で作成したゼミ論の口頭発表を行い質疑応答を通して完成度を高めます。

【授業の展開計画】
各自がゼミ論の提示をしないと授業が成り立ちません。遅くとも12月に論文を完成し発表します。
多くの場合、ゼミ論は卒業論文と同一テーマになります。形式は学科が指定する文字数、枚数を適用します。

このゼミでは、学外研修（これまでは韓国、台湾）をゼミ生主体で計画・実施します。
旅行ではなく、ネットや留学生からの情報を基に、他文化への理解を深めます。
成績評価は、事前の調査・計画、事後の報告書を基に判断します。
参加できない学生には調査課題を与えます。

【履修上の注意事項】
後期は、推薦入試、大学祭、年末のイベント、就職活動と本業を見失いがちです。
自分の立てた計画を遅れずに実行してください。

【評価方法】
早めの提出で添削も可能です。
最終評価は提出されたゼミ論で行います。（卒論に準じる）
　構成、論証の正確さ、参考文献の有効性、文章の明瞭さ

【テキスト】
指定なし。

【参考文献】
個々のテーマによって異なりますが、必要に応じて提示します。

演習Ⅳ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】
演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。
1　ガイダンス
2　研究発表
3　研究発表
4　研究発表
5　研究発表
6　研究発表
7　研究発表
8　研究発表
9　研究発表
10　研究発表
11　研究発表
12　研究発表
13　研究発表
14　ゼミ論集等の作成
15　まとめ

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、Ａ４一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】
①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じて指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

演習Ⅳ

担当教員 大城　朋子

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】
1. 調査結果に関する発表・討議
2. 学術論文の読み込み
3. 報告書作成

【履修上の注意事項】
積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験し、より論理的な視点を養ってほしい。

【評価方法】
研究への取り組み、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】
各自のテーマに沿って選んだ学術論文をテキストとします。

【参考文献】

応用言語学

担当教員 -仲間　恵子

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
言語学における基本的な事項（音声、文法、語彙、文字）をふまえた上で、実際の言語においてどのような分析ができるか考える。また、具体例をとおして用例の集め方、提示の仕方について学ぶ。特に標準語と琉球語の接触においてあらわれる言語現象をとりあげる。

【授業の展開計画】
進捗状況により、内容は前後する。

週	授業の内容
1	ガイダンス　標準語と琉球語
2	接触言語とは
3	琉球列島における言語接触１語彙
4	琉球列島における言語接触２語彙（俗語）
5	琉球列島における言語接触３文法（格・とりたて）
6	琉球列島における言語接触４文法（動詞）
7	琉球列島における言語接触５文法（動詞・形容詞）
8	琉球列島における言語接触６発音
9	琉球列島における言語接触７文字
10	接触言語の地域差
11	本土方言における言語接触
12	社会的背景と言語学における接触言語の分析について１（歴史）
13	社会的背景と言語学における接触言語の分析について２（地理・生活状況）
14	日常の言語活動における用例のとりだし（データ化）と分析について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】
テキストは教員で用意する。

【参考文献】

漢文学Ⅰ

担当教員 -平良　妙子

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
漢文を読むためには漢字が本来持つ意味や文章の構造を把握し、日本語の古文法に従って和訳・解釈する知識が必要である。この講義では漢文を読むための基礎的な方法、調べ方や工具書の使い方などを学び、「訓点」の施された漢文をより正確に読む訓練を繰り返しながら、漢文訓読に慣れ親しむことに重点をおく。
　まずは漢文解釈に必要な文法事項の確認を徹底して行うが、それ以外にも練習を通して人名、書名、語彙、歴史事項といった漢文解釈のための基礎知識を身に着けたい。

【授業の展開計画】
漢文学Ⅰでは、日本語古典文法Ⅰ、Ⅱの講義と連携し、漢文訓読法及び語文法を復習し、辞書を引きながら、漢文を訓読し解釈する練習を繰り返し行う。方法としては、指定の教科書に沿って高校で学習した句法の復習と確認を行い、練習問題を使って句法の確認と漢文解釈（和訳）を練習する。前半で句法の確認と整理が終わった後、中間テストを実施する。
後半は、復習した句法を使って短い文章の分析・読解を行ない、最後にまとめの期末テストを実施する。

週	授　業　の　内　容
1	登録・ガイダンス
2	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－否定・疑問・反語
3	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－使役・受身
4	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－比較・選択
5	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－仮定・限定
6	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－比況・抑揚
7	「漢文訓読法基礎」句法の確認と整理－累加・詠嘆・願望
8	中間テスト
9	短文の分析・読解の練習
10	短文の分析・読解の練習
11	短文の分析・読解の練習
12	短文の分析・読解の練習
13	短文の分析・読解の練習
14	短文の分析・読解の練習
15	授業のまとめとアンケート
16	期末テスト

【履修上の注意事項】
＊受講に際しては必ず『新字源』『漢語林』のような漢和辞典を用意すること。（電子辞書可）
＊「日本語古典文法I・II」を履修済みであること。履修していない場合は、前期オリエンテーションにてプレイスメントテストを受け、漢文法の基礎を理解していることを確認した上で受講を許可する。

【評価方法】
中間テストと期末テストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】
『基礎から解釈へ　漢文必携　』三訂版　（桐原書店）

【参考文献】
講義中に紹介する。

漢文学Ⅱ

担当教員 -平良　妙子

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「漢文学Ｉ」で身に着けた漢文訓読の基礎知識を生かし、この講義では長文読解にポイントを置き、さまざまなジャンルの漢文（散文）を精読しながら正しい解釈と長文読解の実践力を身に着ける。また、単に内容の把握に止まらず、漢文講読を通して古代中国の文化、思想、歴史等を理解し、文章の美しさや深さを味わう機会としたい。また、中国文学の精華である詩について、唐詩を中心にその形式や規則などを学び、詩の世界を味わうための基礎力を身に付ける。

【授業の展開計画】
前半は「漢文学Ｉ」で学んだ漢文訓読の基礎をふまえ、訓読、現代語訳、語句の解釈を中心とした長文読解、内容の理解を深めるために「設問」にも取り組む。教材には沖縄県教員採用試験等の出題傾向を参考に、思想、歴史、伝記、説話等の様々なジャンルから短文を選定し、グループに分かれて持ち回りで内容についての発表を担当してもらう。その際担当者には「語釈」「試訳」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。
また後半では韻文（詩）を学習対象とし、特に近体詩の構造について一通り学び、代表的な作品を鑑賞する。

週	授　業　の　内　容
1	登録・ガイダンス
2	「漢文の構造」文型を中心に
3	「読解トレーニング」
4	「読解トレーニング」
5	「読解トレーニング」
6	「読解トレーニング」
7	「グループでの分析発表」
8	「グループでの分析発表」
9	「グループでの分析発表」
10	「グループでの分析発表」
11	「グループでの分析発表」
12	「近体詩の構造」－押韻・平仄など
13	「近体詩鑑賞と分析」
14	「近体詩鑑賞と分析」
15	授業のまとめとアンケート
16	期末テスト

【履修上の注意事項】
＊受講に際しては『新字源』『漢語林』のような辞書を用意すること。
＊漢文学Ｉを履修済みであること。

【評価方法】
発表、レジュメの内容と期末テストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】
『基礎から解釈へ　漢文必携』三訂版（桐原書店）及び、プリントやレジュメを適宜配布する。

【参考文献】
講義中に適宜紹介する。

グローバルコミュニケーション論

担当教員 -岸本　孝根(11回)、兼本　敏(2回) 、大城　朋子(3回)

対象学年 １年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
沖縄は古から、万国津梁(世界の架け橋)と言われ、今日でも様々な分野において重要な役割を果たしています。現代社会はボーダレス化も進み、国境を越えたコミュニケーション能力を有する人材が、今後益々必要とされることが予測されます。
この講義では、このような社会に対応できるよう、様々な地域の語学や文化などの教養を深めながら、自国との類似点・相違点を理解し尊重することの重要性を学びます。
また、交流学習を通して、国際化に適応し実践できる力を身につけることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、自己紹介、グループ分け
2	交換留学と海外語学・文化セミナー、認定留学、私費留学、ワーキングホリデーについて
3	韓国文化を学ぼう１：歴史、ハングル文字について
4	韓国文化を学ぼう２：年中行事、文化、社会
5	韓国文化を学ぼう３：基礎会話
6	ハワイ文化を学ぼう１：歴史、ハワイ語会話①
7	ハワイ文化を学ぼう２：言語文化社会、生活・年中行事、ハワイ語会話②
8	ハワイ文化を学ぼう３：移民と県系・日系社会、ハワイ語会話③
9	国際交流学習へ向けての準備
10	国際交流学習
11	国際交流学習
12	中国の文化と歴史を知ろう！（文字と言葉を中心に）
13	現代の「中国語」とは？　（日本語や英語との相似と相違を中心に）
14	プレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション
16	期末テスト

【履修上の注意事項】
シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況等によって変わることがあります。

【評価方法】
活動状況（授業への参加状況と態度）、発表内容、現場実習、レポート、テストから総合的に判断します。
コミュニケーション力を高めるために、グループ活動や現場実習も行います。
どんな課題に対しても、積極的に参加するよう心がけて下さい。

【テキスト】
担当教員が適宜、プリントを準備します。

【参考文献】
講義の中で紹介します。

言語文化接触論Ⅰ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語や中国語など、日本語以外の言語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。琉球の言語や文化が、日本語以外の言語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを考察します。

【授業の展開計画】
本講義では、以下のことの繰り返しを計画しています。
・学生への課題の提示
・学生によるレジュメの準備および発表
・学生および教員によるコメント・討議

【履修上の注意事項】
出席日数が３分の２に満たない者は原則として単位を与えません。
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

【評価方法】
平常点、レポート、試験等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容について評価します。

【テキスト】
その都度指示します。各自毎回、英和辞典を持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。

【参考文献】
その都度指示します。

言語文化接触論Ⅱ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語や中国語など、日本語以外の言語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。琉球の言語や文化が、日本語以外の言語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを考察します。（Ｉの継続）

【授業の展開計画】
本講義では、以下のことの繰り返しを計画しています。
・学生への課題の提示
・学生によるレジュメの準備および発表
・学生および教員によるコメント・討議

【履修上の注意事項】
出席日数が３分の２に満たない者は原則として単位を与えません。
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

【評価方法】
平常点、レポート、試験等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容について評価します。

【テキスト】
その都度指示します。各自毎回、英和辞典を持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。

【参考文献】
その都度指示します。

現代文学理論 I

担当教員 −大城　貞俊

対象学年 3年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代文学の理論を、創作と読解の両面から考察する。このことによって、文学や言語文化に対する理解を深め、知識を豊かにする。文学理論については、国内外の評論家の言説を学び、具体的な対象作品を、沖縄文学、日本文学、世界文学に広げて学習し、将来の豊かな言語生活に資するものとする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	はじめに。沖縄現代文学の解法(1)詩＝様々な表現法
2	沖縄現代文学の解法(2)詩＝方言詩の実験
3	沖縄現代文学の解法(3)小説。目取真俊の世界など
4	沖縄現代文学の解法(4)短歌・俳句
5	沖縄現代文学の解法(5)政治と文学
6	文学理論の探究(1)テリー・イーグルトン
7	文学理論の探究(2)ロラン･バルト
8	文学理論の探究(3)田中実
9	文学理論の探究(4)足立悦男
10	日本現代文学の読解(1)教科書定番教材をどう読むか
11	日本現代文学の読解(2)芥川賞受賞作品をどう読むか
12	日本現代文学の読解(3)村上春樹をどう読むか
13	日本現代文学の読解(4)話題作をどう読むか
14	世界文学の読解(1)ノーベル賞受賞作品をどう読むか
15	世界文学の読解(2)近代現代の名作をどう読むか
16	まとめ・評価・レポート提出

【履修上の注意事項】

(1)文学理論及び文学作品に関心を寄せる者であれば、広く受け入れる。
(2)事前事後の学習として、数多くの文学作品を読むことが望ましい。

【評価方法】

(1)文学理論や文学作品に関するレポートによる評価（70%）
(2)小課題やペーパーテスト、及び出欠状況による評価（30%）
(3)授業時数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

【テキスト】

(1)特になし

【参考文献】

(1)各回の講座に関する作者の作品。　(2)田中実『小説の力』2010年、大修館。

国語科教材研究演習 I

担当教員 -國場　厚子

対象学年 3年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
国語科における様々な文章教材を読むことによって、読解能力や論理的思考力の養成を目指し、読むことの技術および視点の深化を図る。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	日本の古典①
3	日本の古典②
4	日本の古典③
5	日本の古典④
6	中国の古典文学①
7	中国の古典文学②
8	中国の古典文学③
9	中国の古典文学④
10	評論①
11	評論②
12	評論③
13	小説①
14	小説②
15	小説③
16	期末考査

【履修上の注意事項】
(1)国語科教職課程の履修者のみの履修を認める。
(2)辞典（国語辞典・古語辞典・漢和辞典）を必携すること。

【評価方法】
期末考査、出席状況、授業への参加状況により、総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
プリントを配布する。

古典に親しむ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 １年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
古典に親しむというのが本講義の目的である。今回は古事記を講読する予定である。

【授業の展開計画】
1　古事記入門
2　創世の神々
3　イザナキとイザナミ
4　アマテラスとスサノヲ
5　スサノヲの大蛇退治
6　大国主神の事績
7　アメノワカヒコ
8　タケミカヅチ
9　タケミナカタ
10　ホノニニギ
11　海幸彦と山幸彦
12　ウカヤフキアヘズ
13　神武天皇
14　ヤマトタケル
15　まとめ

【履修上の注意事項】
毎回、小レポートを提出してもらう。

【評価方法】
毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。

【テキスト】
中村啓信『古事記』角川文庫

【参考文献】
その都度、指示する。

古典に学ぶ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 1年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
古典に学ぶというのが本講義の目的である。今回は平家物語を講読する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	平家物語の諸本
2	祇園精舎、殿上闇討、鱸
3	禿髪、吾身栄花、祇王
4	二代后、額打論、清水寺炎上
5	東宮立、殿下乗合、鹿谷
6	俊寛沙汰、願立、御輿振
7	内裏炎上、座主流、一行阿闍梨之沙汰
8	西光被斬、小教訓、少将乞請
9	教訓状、烽火之沙汰、大納言流罪
10	阿古屋之松、大納言死去、徳大寺厳島詣
11	山門滅亡、善光寺炎上
12	康頼祝言、卒都婆流、蘇武
13	赦文、足摺、御産
14	公卿揃、大塔建立、頼豪
15	少将都帰、有王、僧都死去、まとめ
16	

【履修上の注意事項】
毎回、小レポートを提出してもらう。

【評価方法】
毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。

【テキスト】
『平家物語一』岩波文庫

【参考文献】
その都度、指示する。

コミュニケーションスキルⅠ

担当教員 -高良　宣孝

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業では、日本語のコミュニケーションスキルを向上させるために、（１）日本語の基本的な言語学的特質、（２）物事を論理的に話す技術、の2点を重点的に学習していきます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	イントロダクション、金田一：序章
2	クイズ（１）、金田一：第１章（１）
3	クイズ（２）、金田一：第１章（２）
4	クイズ（３）、金田一：第２章（１）
5	クイズ（４）、金田一：第２章（２）
6	クイズ（５）、金田一：第３章
7	クイズ（６）、金田一：第４章（１）
8	クイズ（７）、金田一：第４章（２）
9	クイズ（８）、金田一：第４章（３）
10	クイズ（９）、金田一：第５章（１）
11	クイズ（１０）、金田一：第５章（２）
12	クイズ（１１）、金田一：第６章
13	クイズ（１２）、山本：第１章
14	クイズ（１３）、山本：第２章
15	クイズ（１４）、山本：第３章
16	期末試験

【履修上の注意事項】
①　無断欠席はしないこと。
②　教科書を予習して授業に臨むこと。
③　クイズの準備をしっかり行うこと。クイズの再受験はありません。

【評価方法】
①　クイズ　５０％
②　期末試験　５０％
③　欠席回数が１／３以上の学生には単位を与えない。

【テキスト】
１．金田一春彦『日本語の特質』（NHKブックス）
２．山本昭生『論理的に話す技術』（サイエンス・アイ新書）

【参考文献】
適宜紹介する。

コミュニケーションスキルⅡ

担当教員 -高良　宣孝

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業では、前期の「コミュニケーションスキルI」で学習した日本語の基礎的な特徴をベースに、日本語と外国語とを比較し、日本語の特質についてさらに理解を深めていきます。また同時に、前期からの継続として、物事を論理的に話す技術についても学習していきます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	イントロダクション、鈴木：第１章（１）
2	クイズ（１）、鈴木：第１章（２）
3	クイズ（２）、鈴木：第１章（３）
4	クイズ（３）、鈴木：第２章（１）
5	クイズ（４）、鈴木：第２章（２）
6	クイズ（５）、鈴木：第２章（３）
7	クイズ（６）、鈴木：第３章
8	クイズ（７）、鈴木：第４章（１）
9	クイズ（８）、鈴木：第４章（２）
10	クイズ（９）、鈴木：第５章（１）
11	クイズ（１０）、鈴木：第５章（２）
12	クイズ（１１）、鈴木：第５章（３）
13	クイズ（１２）、山本：第４章
14	クイズ（１３）、山本：第５章
15	クイズ（１４）、山本：第６章
16	期末試験

【履修上の注意事項】
①　無断欠席はしないこと。
②　教科書を予習して授業に臨むこと。
③　クイズの準備をしっかり行うこと。クイズの再受験はありません。

【評価方法】
①　クイズ　５０％
②　期末試験　５０％
③　欠席回数が１／３以上の学生には単位を与えない。

【テキスト】
１．鈴木孝夫『日本語と外国語』（岩波新書）
２．山本昭生『論理的に話す技術』（サイエンス・アイ新書）

【参考文献】
適宜紹介する。

書写

担当教員 -比嘉　徳次

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 前期・後期
授業形態
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とする。前半を講義、後半を実技に充てる。講義では甲骨文（篆書）から始まり、楷書に至るまでの各書体の成立について概観する。実技では、書写と書道の違いをしっかり踏まえ、中学校書写の教科書を題材とした授業を行う。また、古典の臨書方法、用具・用材やその扱い方にも及ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	
1	中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ　　実技	楷書を書く①
2	筆順の原則①	楷書を書く②
3	筆順の原則②	楷書を書く③
4	許容の字体について	楷書と仮名の調和①
5	漢字の誕生－甲骨文－	楷書と仮名の調和②
6	金文について	行書を書く①
7	篆書について	行書を書く②
8	隷書について（実技含む）	行書を書く③
9	様々な書－行書・草書・木簡・帛書－	行書と仮名の調和①
10	書聖王羲之	行書と仮名の調和②
11	平面から立体へ－楷書の成立－	細字を書く
12	三過折法について	仮名を書く①
13	初唐の三大家について	仮名を書く②
14	顔真卿と明朝体	半切1/4に書く①
15	臨書の方法について（実技）	半切1/4に書く②
16	期末考査	

【履修上の注意事項】
１，書道用具等は毎時間必ず持参すること。
２，筆・硯を洗う場所がないので、学内では洗わないこと。

【評価方法】
１，出席状況、実技課題の提出状況、テストの点数を総合的に判断し、評価する。
２，欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【テキスト】
中学校書写教科書（プリントを配布する）

【参考文献】
プリントを配布する

書道実習

担当教員 -比嘉　徳次

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 前期・後期
授業形態 実験実習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
実技を中心とした授業を行う。古典の臨書を通して、各書体について基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とする。併せて、表現の方法にも触れる。また、書写との関連にも配慮するとともに、文房四宝などについての知識を深め、用具・用材の扱いについても学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	楷書を書く－楷書の基本用筆について－
2	臨書①　九成宮醴泉銘　雁塔聖教序
3	臨書②　張猛龍碑
4	行書を書く－行書の基本用筆－
5	臨書①　蘭亭序
6	臨書②　争坐位稿
7	隷書を書く－隷書の基本用筆－
8	臨書　曹全碑
9	仮名を書く－仮名の基本用筆－（変体仮名について含む）
10	臨書　高野切れ
11	漢字仮名交じりの書①
12	漢字仮名交じりの書②
13	創作①
14	創作②
15	創作③
16	

【履修上の注意事項】
１，書道用具は毎時間必ず持参すること。
２，筆・硯を洗う場所がないので、学内では洗わないこと。

【評価方法】
１，出席状況、授業態度、実技課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。
２，欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献】
プリントを配布する。

児童文化論

担当教員 山口　真也

対象学年 2年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
児童文化としての「マンガ」「アニメーション」を題材として、言論・表現活動のルールとマナーについて広く学習するとともに、その理論に基づいて沖縄の昔話を題材とした音声入りの子ども向けアニメーションを制作、インターネット上に公開するという一連のプロセスを通して、「ITを用いて沖縄の文化を発信する」ことを目的とする「多文化間コミュニケーションコース」での研究活動のモデル学習を行う。

【授業の展開計画】
＜学習目標＞
①1年生必修科目「文化情報処理入門」にて修得した文書処理・表計算処理の技能をベースとして、画像、音声、動画処理を含むマルチメディア情報の処理に求められる基本的なスキルを身に付ける。
②インターネット社会において1人1人に求められる基本的な知識として、言論・表現の自由と自主規制の関係を学び、SNS等の日々の情報行動を自律的に管理するためのスキルを身に付ける。

週	授業の内容
1	ガイダンス・文化情報を発信する意義、グループの決定、グループワークの注意点
2	情報発信のルールとマナー①　言論・表現の自由とネット社会、表活動を規制する法制度
3	情報発信のルールとマナー②　言論・表現の自由と自主規制の関係
4	情報発信のルールとマナー③　グループワーク(子ども向け作品にみる自主規制の現状の調査)
5	情報発信のルールとマナー③　グループワーク(自主規制状況にみる課題の考察・発表)
6	文化情報の発信①　作品の選定・シナリオ作成
7	文化情報の発信②　音声情報処理｜スタジオ録音(リハーサル)
8	文化情報の発信③　音声情報処理｜スタジオ録音(本番)
9	文化情報の発信④　音声情報処理｜音声ファイルの編集方法(ファイルの種類、結合とミキシング)
10	文化情報の発信⑤　音声情報処理｜音声ファイルの編集方法(フェードイン・フェイドアウト他)
11	文化情報の発信⑥　音声情報処理｜実習(音声ファイル制作)
12	文化情報の発信⑦　画像情報処理｜イラストの作成方法
13	文化情報の発信⑧　画像情報処理｜実習(イラスト制作)
14	文化情報の発信⑨　動画情報処理｜アニメーションの編集方法
15	文化情報の発信⑩　動画情報処理｜実習(アニメーション制作)
16	文化情報の発信⑪　課題提出・ネット公開・プレゼンテーション

【履修上の注意事項】
・本科目は上級情報処理士Nの認定科目の1つである。基礎的な情報科目の履修を終えた、資格取得を目指す学生の受講を優先する。(3年生以降で受講すること)
・欠席回数が全体の2／3を超えた場合は不可となる。

【評価方法】
・グループワークでの取り組み(20点)
・ソフトウェアの完成度(80点)　とし、総合的に評価する。

【テキスト】
・プリントを配布する。
・第6回以降はPC室での授業となるため、教材のデータを保存するためのUSBを各自準備すること。

【参考文献】
・適宜指示する。

ジャパノロジーⅠ

担当教員 -兼本　円

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
下記の学習目標を達成していくために、まず、日本文化に対する意識と自己アイデンティティについて問うところからスタートする。そして、日本人のコミュニケーションの実態を検証し、日本語と日本の生活文化、そして、時間と空間との関係から日本文化を認識･確認し、学びを重ねていく。更に、日本の外からの視点も意識しながら内と外の双方の視点から自文化を認識し、グローバルなコミュニケーション能力の基盤を構築していく。

【授業の展開計画】
多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けながら、日本文化や事情に関する知識や認識を深めていく。そして、それらを効果的に発信する方法を身につけると同時に多文化理解をも深めていく。そのために、課題遂行を通して自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として用い、グローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

週	授　業　の　内　容
1	ジャパノロジーとは
2	文化とアイデンティティ
3	多文化コミュニケーションとジャパノロジー
4	日本人のコミュニケーション･スタイル
5	時間と空間と文化- 比較，祭の機能
6	課題：国内外のメディアの中のジャパノロジー(映画、アニメ、マンガ、小説、民話等)
7	課題：国内外のメディアの中のジャパノロジー(映画、アニメ、マンガ、小説、民話等)
8	実験：日本を伝える（日本文化を表す語彙を、外国人にわかりやすく説明する）
9	言語と文化(（タブーと婉曲表現、挨拶、呼称･人称代名詞、日本のことわざ､忌み言葉、曖昧な日本
10	言語と文化(（タブーと婉曲表現、挨拶、呼称･人称代名詞、日本のことわざ､忌み言葉、曖昧な日本
11	教員のプレゼンテーション　（パワーポイント、動画、音楽等）
12	最終課題：生活と文化を発信する(沖縄･日本の衣、住、食、行事と祭り他)
13	最終課題：生活と文化を発信する(沖縄･日本の衣、住、食、行事と祭り他)
14	最終課題：生活と文化を発信する(沖縄･日本の衣、住、食、行事と祭り他)
15	最終課題：生活と文化を発信する(沖縄･日本の衣、住、食、行事と祭り他)
16	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】
出席、意欲、課題への取り組み、プレゼンテーション、期末の試験等、総合的に判断する。
毎回、「日本事情」「沖縄事情」の英文で書かれたテーマを一つとりあげ課題で出す。それを読み、次回にクイズを課す。最終の課題では、テーマを一つ決め、インタビューあるいは調査を行い、DVDに映像と英語のテロップをつけ日本語で発表する。

【テキスト】
随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも、各自が自主的に資料を収集することも期待される。

【参考文献】

ジャパノロジーⅡ

担当教員 -兼本　円

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報システム論

担当教員 ‐芳山　紀子

対象学年 ３年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ネット社会といわれる今日、ソフトウェアの知識や技術のみでは、解決できない諸問題が山積しています。本教科は、文系の学生が学ぶ機会の少なかったパソコンのハードウェア、ネットワーク、セキュリティそして情報倫理を包括的に学習し、情報運用管理力を養い、ソフトウェア操作レベルのエンドユーザーから脱却し、実社会において「情報運用管理者」として活躍できるスキルを習得するものである。なお、本カリキュラムは、7年間の研究と実践により、専門家の範疇とされてきたハードウェアやネットワークを、全国に先駆けてエンドユーザー向けの理論として新たに体系づけたものである。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	パソコンの種類とハードウェアの構成
2	本体を構成する部品とその役割
3	パソコンの解体と組み立て(実機実習)
4	パソコンの周辺機器　～日常でのメンテナンス～
5	ソフトウェアの種類・歴史とその機能　　ファイルの概念
6	パソコンのトラブル対処　　ハードウェア編
7	パソコンのトラブル対処　　ソフトウェア編
8	情報倫理１：情報倫理の必要性と場面別ネチケット
9	情報倫理２：関連法規（個人情報保護法／不正アクセス禁止法他）
10	情報倫理３　サイバー犯罪の事例と対処法
11	ネットワーク基礎
12	著作権
13	インターネットセキュリティ／ネット依存の原因と対処
14	単元別確認テスト
15	成績評価試験
16	ネット社会の課題と対処／期末テストの解説／成績発表

【履修上の注意事項】
原則として、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。

【評価方法】
出席・遅刻状況、学習態度、単元別テスト、期末試験などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】
アプロスコンピュータ学院編：文系の学生のためのパソコン基礎概念Ⅰ

【参考文献】
パソコン整備士検定試験３級公式テキスト

ゼミナールⅠ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業論文の執筆を見据え、言語研究の基礎を学び、方法論を身につけます。
グループあるいは個人でプレ研究テーマを設定し、先行研究を収集・分析し、実際に調査を行い、その結果を発表します。

【授業の展開計画】
第１回　オリエンテーション、ゼミ開き
第２回～　第９回　研究テーマの設定、先行研究の収集、調査とその考察
第１０回～第１４回　成果報告
第１５回　まとめ

【履修上の注意事項】
特になし。

【評価方法】
ゼミへの参加度（出席、研究発表など）から総合的に判断します。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
ゼミ内において適宜示します。

ゼミナールⅠ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
基本的には近現代の文学テクストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。 一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】
1　ゼミ運営の方針説明
2　レジュメの作り方
3　調査、資料収集の方法
4　学術論文のスタイル
5　発表及び討議
6　ゼミ論文の作成
7　ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】
夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】
①発表　②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度　③出席

【テキスト】
プリント使用。

【参考文献】
取り上げる作品に応じて適宜指示します。

ゼミナールⅠ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げげながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する（８）
2	調べる（１）	18	発表する（９）
3	調べる（２）	19	発表する（１０）
4	調べる（３）	20	発表する（１１）
5	調べる（４）	21	発表する（１２）
6	分析する（１）	22	発表する（１３）
7	分析する（２）	23	発表する（１４）
8	分析する（３）	24	発表する（１５）
9	分析する（４）	25	ゼミ論集の制作（１）
10	発表する（１）	26	ゼミ論集の制作（２）
11	発表する（２）	27	ゼミ論集の制作（３）
12	発表する（３）	28	ゼミ論集の制作（４）
13	発表する（４）	29	まとめ（１）
14	発表する（５）	30	まとめ（２）
15	発表する（６）	31	
16	発表する（７）		

【履修上の注意事項】
二月にゼミ論集の完成を予定している。
毎回、小レポートの提出を義務づける。

【評価方法】
発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
そのつど紹介する。

【参考文献】
そのつど紹介する。

ゼミナールⅠ

担当教員 狩俣　恵一

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
演習Ⅲの４年次生は、卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらう。発表の内容は琉球文学を対象とする。ゼミナールⅠの３年次生は４年次生の発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。
琉球文学には、琉球士族社会で育まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することもできるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話もまた本土との繋がりが深いので、そのことを考慮して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】
第１回　発表についての説明
１．各発表者の発表日の確定
２．発表資料等作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
３．発表資料はパソコンで作成すること。
４．発表の後には、一人一人が必ず質問や意見などを述べること。

第２回～第15回　４年次生全員が各自のテーマで発表し、質疑応答を行う。

第16回　全体の総括と試験

【履修上の注意事項】
１．発表者が無断欠席をした場合は、原則として単位を認めない。
２．欠席が３分の１を超える学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】
出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】
なし

【参考文献】
『沖縄古語大辞典』『沖縄民俗辞典』『琉歌全集』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

ゼミナールⅠ

担当教員 大城　朋子

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
　言語・コミュニケーションを人間・文化・社会との関りにおいて考え、そこに存在する課題に取り組んでいく。属性とことば、言語行動、言語生活、言語接触、言語意識、言語習得等の社会言語学領域の文献や日本語教育に関する文献を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジメを作成し ppを用いて発表していく。

【授業の展開計画】
1.ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2.学術論文を読み込む
3.テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4.調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】
　常に問題意識を持ち、積極的に資料を調べたり専門家に直接尋ねたりして自主的に研究に取り組み、問題解決に臨んでほしい。生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】
　共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】
ダニエル・ロング他編『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社
真田信治他著『社会言語学』おうふう社 他

【参考文献】

ゼミナールⅠ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は、松尾芭蕉『おくの細道』を扱う。芭蕉自筆本等の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。

【授業の展開計画】
第１回　ガイダンス
第２回～第４回　翻字演習
第５回～第１４回　レポート発表
・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。
・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などの関連する事項を調べること。
・調査結果に基づく通釈、考説であること。
第１５回～第１６回　注釈書（ゼミ論集）の編集作業。

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】
①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】
テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】
授業内で指示する。
『字典かな　新装版』（笠間書院）￥７８０

ゼミナールⅠ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。
卒業論文のテーマを念頭に置き、レジュメを作成、発表し、検討会を持つ。
その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力の基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	卒業論文の概要とスケジュール　（発表日の確定）
2	卒業論文のテーマの立て方と書き方
3	学術論文を読む(1)
4	学術論文を読む(2)
5	学術論文を読む(3)
6	学術論文を読む(4)
7	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(1)
8	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(2)
9	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(3)
10	発表・質疑応答(1・2)
11	発表・質疑応答(3・4)
12	発表・質疑応答(5・6)
13	発表・質疑応答(7・8)
14	発表・質疑応答(9・10)
15	発表・質疑応答(11・12)
16	

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ・資料等は、発表者が人数分用意すること。③毎時間、Ａ４一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】
出席・発表内容・質問内容などをもとに総合的に判断する。

【テキスト】
適宜紹介する。

【参考文献】
適宜紹介する。

ゼミナールⅠ

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。
情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。
なお３年生は、次年度の卒業論文作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール
3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法
4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法
5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法
6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方
7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議
8	テーマと方法論の発表／個別指導①
9	テーマと方法論の発表／個別指導②
10	テーマと方法論の発表／個別指導③
11	テーマと方法論の発表／個別指導④
12	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導①
13	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導②
14	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導③
15	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導④
16	まとめ

【履修上の注意事項】
各自のテーマを明確に設定し、論文作成のための計画を立案すること。

【評価方法】
出席状況と各自の発表内容、討議への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。
必要に応じて調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

ゼミナールⅠ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球語会話ⅠⅡ」「琉球語学特講ⅠⅡ」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。 また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

ゼミナールⅠ

担当教員 兼本　敏

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
受講生は１～２年で履修してきた専門科目および選択科目を総合的に整理し日本文化について各自で確認してもらう。つまり、日本文化学科では必須である卒業論文のテーマ設定をを念頭に置き、クラスに参加してもらう。各自が興味を持っているテーマを発表し合い、質問し合い、必要な知識、欠落している知識を確認し補っていく。また、論文、報告書、感想文などの文章の特徴を理解してもらい、その形式について再度学ぶ。

【授業の展開計画】
ゼミ形式で行うので、授業の展開は発表とディスカッションとなる。
4月は、論文、報告書、感想文などの特徴と形式の確認。
5月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。
6月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。
7月は、各自の課題（欠落していた知識や論文のテーマと章立て）を提出。

【履修上の注意事項】
ゼミ論のテーマは自己責任で選ぶが、卒論へ向けて現段階で自分は
１．何が分かっている、何が分かっていない、を把握してもらいたい。
２．前期ではクラスメートのテーマに耳を傾け、自分の習得した知識の増大に努めてほしい。
学期末に提出してもらうゼミ報告書に１＆２について書いてもらう。

【評価方法】
学期末に提出してもらう「ゼミ報告書」を基に評価する。
評価は、次の３点を基準に評価する。
１）文章の構成（テーマの明示、参考文献の要約、展開と考察）
２）論理性
３）先行研究（資料の収集量と質）

【テキスト】
各自のテーマに応じて自己決定し報告してください。適宜紹介します。

【参考文献】
高橋順一 他（1998）『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版
小笠原喜康　『インターネット完全活用編　大学生のためのレポート・論文術』　講談社現代新書
その他、適宜に紹介する。

ゼミナールⅠ

担当教員 山口　真也

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とします。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞　①多様なメディアの文献収集能力や社会調査法の基礎を身につける。グループ討論に必要な、論理的な思考方法・発表スキルを修得る。③4年生によるテーマ紹介を通して、本ゼミナールのテーマを理解し、自身の研究テーマ、仮説、検証方法を設定できる。④個人研究テーマ発表を通して、基本的な発表スキル（話し方、資料の活用方法、質疑応答の方法）を修得する。⑤ゼミ単位での課外活動やキャリアガイダンスを通して、他者との協働のあり方、グループ内での自己の役割・適性を考え、将来の職業選択に役立てることがでる。

週	授業の内容
1	オリエンテーション(1)：履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2)：個別面談(2年間の目標設定・進路相談)
3	オリエンテーション(3)：就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
4	卒業論文中間報告(1)：4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
5	卒業論文中間報告(2)：4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
6	卒業論文報告(1)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
7	卒業論文報告(2)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
8	卒業論文報告(3)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
9	個人研究テーマの決定(1)：先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)、チューター制度の説明
10	個人研究テーマの決定(2)：先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
11	個人研究テーマの決定(3)：学術研究の方法(問題意識・仮説・検証)、研究計画書の作成方法
12	個人研究テーマの決定(4)：社会調査法(アンケート・観察・インタビュー調査方法)
13	個人研究テーマ発表(1)
14	個人研究テーマ発表(2)
15	個人研究テーマ発表(3)
16	授業のまとめと自己評価(到達度チェック、レポート提出)

【履修上の注意事項】
・本ゼミは、①図書館司書資格課程履修中、②3年次後期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定者(ただし、図書館概論・情報資源論を受講している者)が受講できる。

【評価方法】
定期テスト･･･0点
レポート･･･10点　　(自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート提出)
平常点･･･90点（討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価）
※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
適宜指示する。

ゼミナールⅡ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】
初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。
フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。
音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】
「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球語会話ＩⅡ」「琉球語学特講ＩⅡ」の受講を推奨します。
年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。 また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】
出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】
その都度指示します。

【参考文献】
その都度指示します。

ゼミナールⅡ

担当教員 狩俣　恵一

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミナールⅡの３年次生は、琉歌の発表を行う。発表の内容は『琉歌百控』の歌詞の解釈を中心に進める。演習Ⅳの４年次生をはじめ、発表者以外の学生は、それらの発表を聞いて、質問を行う。　琉球文学には、琉球士族社会で育まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することができるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して、琉歌の調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話・芸能もまた本土との繋がりが深いので、そのことを勘案して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】

第１回　発表方法についての説明

1．各発表者の発表日の確定
2．発表資料作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。また、４年次生から資料の作成方法を学ぶこと。
3．発表資料はパソコンで作成すること。
4．発表の後には、１人１人が必ず質問や意見を述べること。

第２回～15回　３年次生全員が『琉歌百控』の歌詞番号にしたがって発表の順番を決めて発表し、質疑応答を行う。

第16回　全体の総括と試験

【履修上の注意事項】

1．発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。
2．欠席が３分の１を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語辞典』『沖縄民俗辞典』『琉歌全集』『おもろさうし』『南島大成』

ゼミナールⅡ

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。
情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。
なお３年生は、次年度の卒論作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	ゼミ論：経過報告／個別指導①
3	ゼミ論：経過報告／個別指導②
4	ゼミ論：経過報告／個別指導③
5	ゼミ論：書き方
6	ゼミ論執筆：個別指導①
7	ゼミ論執筆：個別指導②
8	ゼミ論執筆：個別指導③
9	ゼミ論執筆：個別指導④
10	ゼミ論発表／質疑応答①
11	ゼミ論発表／質疑応答②
12	ゼミ論発表／質疑応答③
13	ゼミ論発表／質疑応答④
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥
16	ゼミ論提出

【履修上の注意事項】
各自のテーマ設定に基づき、あらゆる情報手段を活用して必要な資料・情報源を収集し、テーマに関する基礎知識を整理・体系化すること。

【評価方法】
出席状況と各自の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】
各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。
必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

ゼミナールⅡ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。
卒業論文のテーマを念頭に置き、レジュメを作成、発表し、検討会を持つ。
その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。

【授業の展開計画】
演習Ｉを踏まえ、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって進める。
年度末には、ゼミ論集等を作成する。

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	研究発表・質疑応答(1・2)
3	研究発表・質疑応答(3・4)
4	研究発表・質疑応答(5・6)
5	研究発表・質疑応答(7・8)
6	研究発表・質疑応答(9・10)
7	研究発表・質疑応答(11・12)
8	研究発表・質疑応答(1・2)
9	研究発表・質疑応答(3・4)
10	研究発表・質疑応答(5・6)
11	研究発表・質疑応答(7・8)
12	研究発表・質疑応答(9・10)
13	研究発表・質疑応答(11・12)
14	ゼミ論集の作成
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ・資料等は、発表者が人数分用意すること。③毎時間、Ａ４一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】
出席・ゼミ論の仕上がりで評価する。

【評価項目】
①構成（章立て、展開）　②参考資料　③引用文の形式

【テキスト】
適宜紹介する。

【参考文献】
適宜紹介する。

ゼミナールⅡ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマを決定します。
先行研究の収集と分析、調査方法、目次の作成など具体的な作業を進め、その心著効状況を報告してもらいます
。

なお、可能であれば調査の実践練習として言語（方言）調査の課外実習も行います。

【授業の展開計画】
第１回のオリエンテーション時にゼミ活動の内容をみなで検討、決定する。
その結果に基づいて、言語調査や中間発表のスケジュールを組み立てる。

【履修上の注意事項】
特になし。

【評価方法】
ゼミへの参加度（出席、研究発表など）から総合的に判断します。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
ゼミ内において適宜示していきます。

ゼミナールⅡ

担当教員 大城　朋子

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
グループで共同研究を行う。テーマの決定、資料収集、調査計画、実際の調査、分析・考察、そして発表等を経て論文にまとめる。このような一連の研究のプロセスを体験することにより、論理的な思考態度の基本を身につけ、卒業論文作成に向けて基礎的な力を養っていく。

【授業の展開計画】
1.調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査
2.調査結果の検討→調査の発表及び討議
3.報告書作成・印刷

【履修上の注意事項】
自主的に研究に取り組み、生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】
共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】
真田信治他著『社会言語学の展望』くろしお出版
他資料も適宜使用する。また、各自で選択する論文も使用する。

【参考文献】

ゼミナールⅡ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する（８）
2	調べる（１）	18	発表する（９）
3	調べる（２）	19	発表する（１０）
4	調べる（３）	20	発表する（１１）
5	調べる（４）	21	発表する（１２）
6	分析する（１）	22	発表する（１３）
7	分析する（２）	23	発表する（１４）
8	分析する（３）	24	発表する（１５）
9	分析する（４）	25	ゼミ論集の制作（１）
10	発表する（１）	26	ゼミ論集の制作（２）
11	発表する（２）	27	ゼミ論集の制作（３）
12	発表する（３）	28	ゼミ論集の制作（４）
13	発表する（４）	29	まとめ（１）
14	発表する（５）	30	まとめ（２）
15	発表する（６）	31	
16	発表する（７）		

【履修上の注意事項】
二月にゼミ論集の完成を予定している。
毎回、小レポートの提出を義務づける。

【評価方法】
発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
そのつど紹介する。

【参考文献】
そのつど紹介する。

ゼミナールⅡ

担当教員 兼本　敏

対象学年 ３年
単位区分 必

開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
前期で提出したゼミ報告書について各自の意見を話し合い、ゼミ論のテーマを決定する。
後期は「ゼミ論」の記述が目標となる。ゼミ論完成に向けて必要な知識の確認を行う。
このゼミ論は卒論に繋がるよう書いてもらう。

【授業の展開計画】
授業は次のように展開する。
10月　ゼミ形式で、前期に提出した「ゼミ論」について話し合う。
11月　各自でゼミ論のテーマを設定し、その構想を発表してもらう。
12月　執筆中のゼミ論について質疑応答を繰り返す。
 1月　ゼミ論の構成と最終提出

【履修上の注意事項】
後期は学校行事や個人的なイベントが多く、アッという間に過ぎてしまいます。
11月には推薦入試、大学祭があり、12月はクリスマスや忘年会で学生の本業を忘れがちです。
欠席は減点としますので体調管理はしっかりと！

【評価方法】
ゼミ論の仕上がりで評価します。評価項目は次の通りです。
１）構成（章立て、展開）　２）参考資料　３）引用文の形式
内容については後期の授業で質疑応答形式で確認します。

【テキスト】

【参考文献】
適宜紹介します。

ゼミナールⅡ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
基本的には近現代の文学テクストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。 一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】
1　ゼミ運営の方針説明
2　レジュメの作り方
3　調査、資料収集の方法
4　学術論文のスタイル
5　発表及び討議
6　ゼミ論文の作成
7　ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】
夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】
①発表　②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度　③出席

【テキスト】
プリント使用。

【参考文献】
取り上げる作品に応じて適宜指示します。

ゼミナールⅡ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ３年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】
演習Ｉで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。
１　ガイダンス
２　研究発表
３　研究発表
４　研究発表
５　研究発表
６　研究発表
７　研究発表
８　研究発表
９　研究発表
10　研究発表
11　研究発表
12　研究発表
13　研究発表
14　ゼミ論集等の作成
15　まとめ

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、Ａ４一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】
①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じて指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

ゼミナールⅡ

担当教員 山口　真也

対象学年 ３年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。また、キャリアに関する情報提供・交換も行い、各自が研究テーマと関わらせながら、進路研究を進めていきます。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①多数の先行研究に触れることで、論理的な文章構成力を身に付ける(学術論文の文体をマスターする)。②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)を理解し、仮説を証明する上で適切な方法を選択するとともに、実施した調査の結果を客観的な視点で分析できる。③研究発表の準備・運営を通して、説明する、質問する、意見を述べる、などのプレゼンテーションの力を高めるとともに、スケジュールマネジメントなどの自己管理能力を伸ばし、就職活動等の実生活に役立てることができる。

週	授　業　の　内　容
1	後期の目標設定・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定
2	レジュメの作成方法・引用の方法・参考文献の書き方・司会進行方法
3	グループ学習①｜基本概念の整理方法(レジュメの見出しの作成)・発表日程の決定
4	グループ学習②｜調査方法の決定・内容の検討(仮説を証明するためにふさわしい調査方法とは？)
5	グループ学習③｜観察調査の分析方法・グラフによる表現方法
6	個人研究発表①｜卒業研究題目仮登録
7	個人研究発表②｜
8	個人研究発表③｜就職ガイダンス①(自己分析の方法)
9	個人研究発表④｜
10	個人研究発表⑤｜就職ガイダンス②(エントリーシートの書き方)
11	個人研究発表⑥｜
12	個人研究発表⑦｜就職ガイダンス③(エントリーシートの書き方)
13	個人研究発表⑧｜
14	個人研究発表⑨｜就職ガイダンス④(エントリーシートの送り方)
15	個人研究発表⑩｜
16	授業のまとめ(到達度のチェック・レポート提出)

【履修上の注意事項】
・履修条件等はゼミナールⅠと同じ。
・ゼミ生が10名を超えるの場合は、12月末、または2月～3月に合宿形式で補講を行うことがあります。
・2月末～3月上旬に4年生による卒業研究発表会があります。

【評価方法】
定期テスト･･･0点
レポート･･･10点　(自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート)
平常点･･･90点（研究発表の到達度、討議への参加、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価)
※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
適宜指示する。

ゼミナール入門

担当教員 田場（5回）下地（1回）狩俣（1回）大野（1回）黒澤（1回）桃原（2回）大城（1回）兼本（1回）山口（2回）

対象学年 ２年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本文化学科開設のゼミの特色、研究内容への理解を深め、専門性の深化と具体的な方策について学ぶ。琉球文化コース、日本文化コース、多文化間コミュニケーションコースの各解説科目の基礎科目、応用科目、発展科目がどのように形成されているかを知り、卒業研究に向けて自分自身の専門性をどのように高めていくかを学び、研究計画を作成する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・大学での学びと進路①（田場）
2	大学での学びと自己実現について（田場）
3	ことばの不思議（下地）
4	琉球文化を考える（狩俣）
5	日本古典文学の世界（田場）
6	近現代文学（黒澤）
7	近現代文学（大野）
8	古典文学と国語科教育（田場）
9	国語科教育を考える（桃原）
10	多文化間コミュニケーションと日本語教育（大城）
11	比較・対照　言語と文化（兼本）
12	図書館情報学・表現論入門、読書を学びに変えるためには（山口）
13	優秀レポートの発表（プレゼンテーション）（田場）
14	研究計画書の作成方法①　研究計画の立て方、ゼミ希望調査の提出方法（桃原）
15	研究計画書の作成方法②　図書館機能を活用した文献検索ガイダンス（山口）
16	

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。③遅刻や途中退出は認めない。④毎時間、文章表現課題がある。

【評価方法】
①出席を重視する。②研究計画書の内容を評価する。③担当者によって所定の課題を求める場合がある。④①～④を総合的に判断して評価を行う。

【テキスト】
なし

【参考文献】
適宜紹介する。

卒業論文

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 通年
授業形態 演習
単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義は卒業論文の作成をめざすものである。研究史をまとめ、分析の視点を設定し、論文の構成について考える。こうした方法論は広く応用が可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒論とは何か	17	中間発表（８）
2	先行研究の整理（１）	18	中間発表（９）
3	先行研究の整理（２）	19	中間発表（１０）
4	先行研究の整理（３）	20	中間発表（１１）
5	先行研究の整理（４）	21	中間発表（１２）
6	分析の視点（１）	22	中間発表（１３）
7	分析の視点（２）	23	中間発表（１４）
8	分析の視点（３）	24	中間発表（１５）
9	分析の視点（４）	25	再検討（１）
10	中間発表（１）	26	再検討（２）
11	中間発表（２）	27	再検討（３）
12	中間発表（３）	28	再検討（４）
13	中間発表（４）	29	まとめ（１）
14	中間発表（５）	30	まとめ（２）
15	中間発表（６）	31	
16	中間発表（７）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】
卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。

【テキスト】
『枕草子・徒然草・浮世草子―言説の変容』

【参考文献】
そのつど指示する

卒業論文

担当教員 西岡　敏

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 通年
授業形態 演習
単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
３年次で設定したテーマを４年次で卒業論文として結実させます。卒業論文提出者（４年次）は、琉球語諸方言についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。

【授業の展開計画】
卒論テーマの確定
全体の略図を考える（目次の作成）
先行研究の検索、収集、内容確認（参考文献目録の作成）
テーマに基づく調査および研究
中間発表および討論
注釈の付け方、文献引用の仕方
草稿の作成と提出
草稿の添削および個別指導
仮提出と添削
完全原稿の執筆および提出
卒論発表会

【履修上の注意事項】
個別的な面談を必要とします。中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行ないます。

【評価方法】
論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。

【テキスト】
その都度指示します。

【参考文献】
その都度指示します。

卒業論文

担当教員 田場　裕規

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 通年
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講は卒業論文の作成をめざすものである。対象は概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も対象とする。

【授業の展開計画】
卒業論文執筆の主体は学生個々人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。
1　卒業論文の要件
2　卒業論文の進め方・年間計画作成
3　先行研究の検索、収集、整理①
4　先行研究の検索、収集、整理②
5　先行研究の検索、収集、整理③
6　先行研究の検索、収集、整理④
7　研究方法の検討①
8　研究方法の検討②
9　研究方法の検討③
10　小テーマの設定①
11　小テーマの設定②
12　卒業論文テーマの確定
13　卒業論文の構成
14　卒業論文の構成の検討
15　中間発表会
16　卒業論文の目次・章立て①
17　卒業論文の目次・章立て②
18　卒業論文の執筆方法①
19　卒業論文の執筆方法②
20　卒業論文の執筆①
21　卒業論文の執筆②
22　卒業論文の執筆③
23　卒業論文の執筆④
24　仮提出と添削
25　添削・個別指導①
26　添削・個別指導②
27　添削・個別指導③
28　卒業論文提出
29　卒業論文集の作成
30　卒業論文発表会

【履修上の注意事項】
①学位論文であることを自覚し、自分自身の向き合うテーマに対して謙虚に取り組んで欲しい。
②調査・検討作業をレジュメ等にまとめるときは遺漏のないように努めること。
③提出締め切りは厳守すること。

【評価方法】
論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じて指示する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 通年
授業形態 演習
単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
情報社会・生涯学習社会における図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自がテーマを自由に設定し、卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。
具体的には「問題解決能力」を身につけるために、各自の問題設定能力→あらゆる情報手段を使用した資料収集能力→収集した各種資料の比較・検討・選択能力→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成作業プロセスをたどることにより、コミュニケーション能力まで含めた、社会生活の中で重要となる実践的能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション：論文作成プロセス	17	中間発表①
2	執筆スケジュールの組み方	18	中間発表②
3	テーマ設定・研究方法の確定	19	中間発表③
4	資料・情報の収集方法	20	中間発表④
5	論文の構成方法	21	論文執筆・個別指導①
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	22	論文執筆・個別指導②
7	各自のテーマ・研究方法の発表①	23	論文執筆・個別指導③
8	各自のテーマ・研究方法の発表②	24	論文執筆・個別指導④
9	各自のテーマ・研究方法の発表③	25	論文内容の発表・質疑応答①
10	各自のテーマ・研究方法の発表④	26	論文内容の発表・質疑応答②
11	個別指導①	27	論文内容の発表・質疑応答③
12	個別指導②	28	論文内容の発表・質疑応答④
13	個別指導③	29	論文内容の発表・質疑応答⑤
14	個別指導④	30	卒業論文提出
15	まとめ	31	総括
16	後期日程について		

【履修上の注意事項】
各自のテーマ設定に基づき、論文作成計画を立案し、計画に沿って着実に論文作成作業を進めること。

【評価方法】
提出された論文により評価する。

【テキスト】
各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 山口　真也

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
前年度の「演習II」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、ソフトウェア制作、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業論文とはなにか？・卒業論文執筆の心得	17	卒業論文の執筆方法1　引用･脚注
2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成	18	卒業論文の執筆方法2　調査結果の整理方法
3	学術論文の書き方1　主題規定文の作成	19	卒業論文の執筆方法3　調査結果の分析方法
4	学術論文の書き方2　序論執筆・問題意識	20	卒業論文の執筆1　(個別相談期間)
5	学術論文の書き方3　序論執筆・検証方法	21	卒業論文の執筆2　(個別相談期間)
6	学術論文の書き方4　学術論の文体	22	卒業論文の執筆3　(個別相談期間)
7	学術論文の書き方5　調査の方法	23	卒業論文の執筆4　(個別相談期間)
8	資料収集の方法1　図書･新聞記事	24	卒業論文の提出(仮提出)
9	資料収集の方法2　雑誌記事･学術論文	25	卒業論文の添削・個別指導1
10	卒業論文の構成1　目次・章立ての方法	26	卒業論文の添削・個別指導2
11	卒業論文の構成2　目次・章立ての発表①	27	卒業論文の添削・個別指導3
12	卒業論文の構成3　目次・章立ての発表②	28	卒業論文の最終提出・抄録の書き方
13	卒業論文の構成4　目次・章立ての発表③	29	卒業論文集の作成・印刷・配布
14	卒業論文の構成5　目次・章立ての発表④	30	卒業論文最終発表①
15	卒業論文の構成6　目次・章立ての発表⑤	31	卒業論文最終発表②
16	卒業論文の様式・英語タイトルの決定		

【履修上の注意事項】
・10月～12月にかけては、1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。
・2月末～3月にかけて合宿形式で卒業研究発表会を行います。

【評価方法】
定期テスト･･･0点
レポート･･･80点　(卒業研究の到達度、卒業論文の完成度を評価します)
平常点･･･20点（討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、個別相談時間の活用状況　などを評価)
※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】
前年度の卒業論文集を使用します。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 狩俣　恵一

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
　卒業論文の対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を行ったうえで、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は充分に読み込むこと。
　執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要することを認識すること。よって、実際に書き出す前に、ゼミの仲間同士で話し合い、質疑応答を活発にして論文の構想を練り上げるようにして欲しい。

【授業の展開計画】
第１回　卒業論文のテーマ設定の理由を各自が説明する。

第２回　論文執筆の段取りについて考える（目次の作成）

第３回～第14回　各自の発表と質疑応答
　１．それぞれの研究テーマ設定についての説明と現段階の調査・研究報告
　２．資料収集と先行論文の報告

第15回　夏休みの課題をそれぞれ与え、それに関連した問題について討論する。

第16回　後期の最初の時間なので、１万字程度の論文を提出する。

第17回　各自の論文執筆に関連した質疑応答を行う。

第18回　卒業論文の仮提出

第19回～第28回　仮提出した論文の指導を受け、更に書き直す。

第29回～第32回　卒業論文集の作成

【履修上の注意事項】
１．発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
２．欠席が３分の１を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】
卒業論文と平常点及び出席

【テキスト】
なし

【参考文献】
各自の研究テーマに応じてその都度指示する。

卒業論文

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ４年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
各自が設定した課題、テーマについて調査・研究を行い、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】
１ 卒業論文の進め方　年間計画作成
２　調査、文献・資料収集の方法
３　参考文献目録の作り方
４　研究史のまとめ方
５　方法、視点の検討
６　小テーマの設定
７　仮説論証の練習
８　卒論テーマの確定
９　構想表の作り方
１０　中間発表　※夏期合宿での「中間発表会」をふくめ、各自年間3回以上
１１　論文執筆
１２　卒業論文の形式、体裁の確認
１３　手直し／推敲／完成
１４　合評会

【履修上の注意事項】
夏期合宿（卒論中間発表会）への参加は必須です。

【評価方法】
論文の内容、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。

【テキスト】
各自の課題、テーマに応じて指導します。

【参考文献】
適宜指示します。

卒業論文

担当教員 兼本　敏

対象学年 ４年
単位区分 必

開講時期 通年
授業形態 一般講義
単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
表現力（文章構成）、資料収集力、分析＆要約などを示す内容の論文を作成してもらいます。
これらの技能を示すのが卒業論文であり、それに対し大学が「学士号」を授与する。
つまり、大学生活で獲得した技能の集大成が「卒業論文」です。

【授業の展開計画】
※授業の展開は受講生各自の進捗に合わせて調整していく。

1　卒業論文の進め方　年間計画作成
2　調査、文献・資料収集の方法
3　テーマの設定
4　テーマの設定
5　方法、視点の検討
6　方法、視点の検討
7　参考文献リストの作成
8　卒論テーマの確定
9　論文執筆
10　中間発表　※夏期合宿を行う
11　論文執筆
12　卒業論文の形式、体裁の確認
13　論文提出（最終）
14　手直し／推敲／完成
15　手直し／推敲／完成
16　発表会

【履修上の注意事項】
「卒業論文」は学生各自が作成するので、授業を受身的に受講するのではなく、各自の卒論のテーマの設定や方法論、論述の工夫など積極的に質問し検討する姿勢を持つこと。

【評価方法】
卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。
学科で決められた要件を満たし提出日を厳守する。

【テキスト】
特定のテキストは設定しない。

【参考文献】
各自のテーマによって授業内で適宜紹介する。

卒業論文

担当教員 大城　朋子

対象学年 ４年
単位区分 必
開講時期 通年
授業形態 演習
単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
テーマの最終設定、資料の収集と読み込み、論文の構想立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるという一連の論文作成のプロセスを経て学術論文を完成させていきます。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して論理的な思考態度を身につけ、大学での学問の集大成とします。具体的には以下に示すような手順で進めます。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション、テーマの絞り込み
2	論文作成構想と具体的年間計画
3	テーマに関する論文目録の作成と発表
4	先行研究の読み込みと発表①
5	先行研究の読み込みと発表②
6	先行研究の読み込みと発表③
7	仮説論証の方法と調査票作成
8	調査の実施とまとめ
9	調査の実施とまとめ
10	先行研究の読み込みと発表④
11	先行研究の読み込みと発表⑤
12	結果・分析・考察のまとめ①
13	結果・分析・考察のまとめ②
14	論文仮提出（12月第２週目の金曜日）
15	論文本提出（１月第２週目の土曜日）
16	.論文発表と冊子作成

【履修上の注意事項】
上記の各プロセスの各段階で発表を繰り返し行っていくので、発表の頻度は高いものになります。
準備を綿密に行うように。

【評価方法】
論文の内容を評価していきますが、論文完成に至までの過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となります。

【テキスト】
必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考文献】
各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していきます。よって、参考文献は多岐にわたることになります。

地域文化情報論

担当教員 西岡敏(3回)、芳山紀子(6回)、伊佐常利(7回)

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
多文化間コミュニケーションコースでは、沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくスキルを身に付けすことを教育目標の１つとしている。本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付けるための専門科目と位置づけ、MySQL やWebプログラミングを用いて琉球語を課材とするデータベースを作成する。
①琉球語の継承におけるデータベース構築の必要性を理解できる。
②MySQLとWebプログラミングの仕組みを理解することができる。
③MySQLとWebプログラミングを用いてリレーショナルデータベースを構築できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	琉球語データベースの必要性①
2	琉球語データベースの必要性②
3	琉球語データベースの必要性③
4	MySQL１｜MySQLの概要と環境設定
5	MySQL２｜テーブルの作成、確認、削除／データ型と列制約／データの挿入／データの検索
6	MySQL３｜where句／比較演算子／論理演算子
7	MySQL４｜並び替え／データの上書き／データの削除
8	MySQL５｜あいまい検索／結合
9	Webプログラミング基礎１｜コーディング基礎と出力
10	Webプログラミング基礎２｜変数とデータ/演算子（算術・文字列連結・代入）
11	Webプログラミング基礎３｜if文／比較演算子／if else／if else if else
12	Webプログラミング基礎４｜論理演算子／for
13	Webプログラミング基礎５｜関数
14	フォームの送受信／Webプログラミングとデータベースとの連携１
15	Webプログラミングとデータベースとの連携２
16	最終課題発表

【履修上の注意事項】
出席日数が３分の２に満たない者は単位を与えない。

【評価方法】
定期テスト・・・０点（テストは行わない）
提出物・・・70点（課題発表でのソフトウェアの完成度で評価する）
平常点・・・30点（単元ごとの課題提出状況、到達度を評価する）

【テキスト】
オリジナルテキストを使用する。

【参考文献】

データベース論

担当教員 -芳山　紀子

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
Excelを通し、データを扱う上での基礎概念を形成し、パソコンの活用能力を高める授業として位置付ける。
更に、収集したデータを様々な角度から分析し、目的に合致した適切な資料を作成するスキルを身に付け、卒業後において、ビジネス社会で通用するスキルを総合的に高める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	１．ガイダンス／基礎編の復習とスキルの平均化１：表計算機能／グラフ機)
2	２．基礎編の復習とスキルの平均化２（データベース機能／総合演習問題)
3	３．関数１：高度な関数の使用法（複雑なネスト関数を自在に操る)
4	４．関数２：難易度の高い関数の活用／演習問題
5	５．ワークシートの連携：ワークシートのグループ化／データのリンク集計他
6	６．３－D集計／データベース機能応用１：複数のワークシート一括集計／高度なデータベース機能
7	７．データベース機能応用２：フィルタオプションの設定／演習問題
8	８．ピボットテーブル１：データの作成／ピボットテーブルの概要／ピボットテーブルの作成
9	９．ピボットテーブル２：ピボットテーブルの変更／演習問題
10	10. 自動集計機能：自動集計機能の概要／自動集計機能の活用
11	11. マクロ機能１：マクロ機能の概要／マクロの作成１
12	12. マクロ機能２：新規マクロの作成／オブジェクトへの登録、マクロの実行
13	13. パソコン理論講義１：日商検定試験共通分野講義
14	14. パソコン理論講義２：日商検定試験データベース分野講義
15	15. 成績評価試験
16	16. 成績評価試験の総括とまとめ、成績発表

【履修上の注意事項】

【評価方法】
成績評価試験・・・知識科目・実技科目の２科目を実施
遅刻・早退を含む出席状況ならびに受講態度等、総合的に評価

【テキスト】
オリジナルテキストを使用する。

【参考文献】

図書館概論

担当教員 山口　真也

対象学年 １年
単位区分 選必

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

【授業のねらい】
本授業は、図書館の存在意義・種類・機能を幅広く学び、現代の図書館が直面している課題や職員制度の問題点などを説明する。司書資格課程の導入科目として位置づけ、必要となる基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とする。一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①図書館情報学を学ぶ上での基本知識（用語の意味など）と学習態度を身につけることができる。②図書館の存在を支える「図書館の自由」という理念を、民主主義、表現の自由、知る自由といったキータムを用いて、適切に説明することができる。③現代の図書館と図書館司書が抱える制度的な問題を知り、自身が在住する自治体の図書館活動に結びつけて理解することができる。④幅広い図書館の種類、豊かな機能、司書の役割を知り、自己の職業適性を考えることができる。

週	授業の内容
1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類
2	図書館の構成要素と現代的課題(1)：建物・資料
3	図書館の構成要素と現代的課題(2)：職員
4	図書館の構成要素と現代的課題(3)：利用者
5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1)：民主主義・表現の自由・知る自由・図書館戦争
6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2)：資料収集・提供の自由 アンネの日記/はだしのゲン問題
7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3)：利用者の秘密を守る
8	図書館の種類(1)　公共図書館①：設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」
9	図書館の種類(2)　公共図書館②：サービスの三原則
10	図書館の種類(3)　学校図書館①：設置主体・目的、サービス対象
11	図書館の種類(4)　学校図書館②：設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴
12	図書館の種類(5)　大学図書館：設置主体・目的、サービス対象、課題
13	図書館の種類(6)　専門図書館：種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など
14	図書館の種類(7)　国立国会図書館・外国の図書館：種類、目的、利用方法、納本制度
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題：　指定管理者制度、授業のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】
・図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。
・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出題する演習問題（自由提出課題）に積極的に取り組みましょう。

【評価方法】
定期テスト･･･80点（期末試験の到達度により評価）
平常点･･･20点（授業時間中の提出物の到達度により評価）
レポート･･･30点　（※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある）

【テキスト】
1回目の授業で指示します。
適宜、プリントを配布します。

【参考文献】
有川浩『図書館戦争』（角川文庫），角川書店，　2011

図書館サービス概論

担当教員 山口　真也

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
図書館活動の基本的なあり方を、図書館サービスの中でも、特に「パブリックサービス」という側面に注目して、その多様な種類、理念、具体的な方法について具体的に学ぶことで、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。 後期から始まる、図書館サービスの各論(児童サービス、レファレンス、情報検索など)の基礎科目と位置づける。

【授業の展開計画】
＜到達目標・習得するべきスキル＞
①図書館サービスに関するの基本知識（専門用語の意味、必要性の理解）、②自身が普段利用している図書館のサービスを適切に評価する力、③自己の職業適性を考える力、④多様な文献や図書館サービスを積極的に活用した上でレポートを作成し、図書館サービスの中でも特に重要な資料提供サービスの必要性・重要性を利用者の視点から理解する力

週	授業の内容
1	ガイダンス・図書館サービスの意義と種類、「サービス」と「教育」の関わり
2	閲覧サービス①　フロアワークとサービス姿勢、施設面での工夫
3	閲覧サービス②　危機安全管理問題(監視カメラ設置の是非、クレームへの対応)
4	閲覧サービス③　開館日時の拡大・滞在型図書館(ラーニングコモンズ等)
5	貸出サービス①　貸出の意義と条件、その種類(個人貸出と団体貸出)・方法
6	貸出サービス②　貸出サービスと司書の専門性(貸出に専門性はあるか？)
7	予約サービス　予約の意義、リクエストとリザーブドの違い、相互貸借の方法
8	複写サービス①　著作権法の基礎知識、図書館との関係(複写・読み聞かせ等)
9	複写サービス②　著作権法と公共図書館(31条の)・学校図書館(35条)
10	情報サービス　レファレンスサービスの現代的意義と制約、ビジネス支援サービスの展開
11	対象別サービス①　若い世代(乳幼児・児童サービス、ヤングアダルト(YA))へのサービス
12	対象別サービス②　図書館利用に障害・困難を抱える人(障害者・高齢者・外国人等)へのサービス
13	図書館活動に対する市民の理解と広報活動
14	図書館活動への市民参加・市民との協働
15	図書館サービスの評価・望ましい基準、授業のまとめ(レポート課題発表)
16	

【履修上の注意事項】
・図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。(1年生の時に受講していない人)
・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出題する演習問題に積極的に取り組みましょう。
・レポート作成においては、6月～7月にかけて実施される「レポートライティングサポート」や、本学図書館のレファレンスカウンターでのサービスを積極的に活用しましょう。

【評価方法】
平常点･･･30点（授業時間中の提出物の到達度により評価する）
レポート･･･70点　（期末レポート、多様な文献・図書館サービスを活用した上で作成すること）
※このほかに自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある。
※詳細は1回目の授業で説明する。

【テキスト】
・プリントを配布する。欠席した場合は研究室前まで取りに来ること。

【参考文献】
小田光宏著『図書館サービス論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-3, 日本図書館協会, 2010)
その他の参考文献は本学図書館１F、指定図書コーナーに排架されている。

図書館情報学特別演習Ⅰ

担当教員 山口　真也

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本授業は、現代の図書館に求められる「課題解決」機能をテーマとする演習・実習形式の授業である。具体的には次の知識・技能を身につけることを目標とする。①大学図書館での選書やイベントの運営などの実習を通して、これからの司書に求められる企画運営能力を身に着ける、②司書として活躍している方々からの講和・実習での交流を通して、職業に対する理解を深め、進路決定の参考とする、③グループでの実習を通して、司書として、社会人として求められる協働意識やチームの一員として働く上での自己の適性を理解する。(学科は問いません。司書科目受講生、かつ基礎的な司書科目の単位を取得している学生が受講できます)

【授業の展開計画】
図書館現場での実習を10月31日午前中、沖縄県立図書館にて予定しています。

週	授業の内容
1	オリエンテーション・選書ワークショップ①　図書館と課題解決支援の関わり、テーマの検討
2	選書ワークショップ②　本学図書館の所蔵資料の調査、選書ツールによる購入資料の検討
3	図書館との協働によるイベント運営①　ビブリオバトルの意義・方法・課題について理解する
4	図書館との協働によるイベント運営②　グループでの実演⇒代表者決定、司会進行他の役割分担
5	図書館との協働によるイベント運営③　リハーサル・代表者のシナリオ内容をグループで再検討
6	図書館との協働によるイベント運営④　ビブリオバトルのモデル実演　(※10月31日1時間目を予定)
7	図書館との協働によるイベント運営④　ビブリオバトルのモデル実演　(※10月31日2時間目を予定)
8	選書ワークショップ③　プレ発表⇒改善点の助言・グループでの再検討、リストの完成
9	選書ワークショップ④　本学図書館への提案(課題発表・プレゼンテーション)
10	図書館ビフォーアフター①　宜野湾市立中央公民館図書室の現状・グループでの質問項目の検討
11	図書館ビフォーアフター②　図書室訪問・担当者へのインタビュー、提案内容の検討
12	図書館ビフォーアフター③　提案するポイントの再検討、提案テーマの最終決定
13	図書館ビフォーアフター④　グループでの話し合い、プレゼンの準備
14	図書館ビフォーアフター⑤　プレ発表⇒改善点の検討
15	図書館ビフォーアフター⑥　公民館図書室への提案(課題発表・プレゼンテーション)
16	(補講)　県立図書館の取り組みを学ぶ・県立図書館と市町村立図書館の違い・採用制度

【履修上の注意事項】
・日本文化学科の専門科目(選択科目)。司書資格取得のための科目ではありません。他学科学生も受講可。
・図書館情報学の基礎知識を必要とするアドバンスド科目ですので、次の司書科目の基礎科目(概論科目)を履修していることを履修の条件とします。「図書館概論」「図書館サービス概論」「情報サービス概論」「図書館情報資源概論」「情報資源組織論Ⅰ・Ⅱ」
・ゲスト講師の都合により、日程が変更になることもあります。

【評価方法】
・出席回数、グループ学習の参加状況、課題発表の到達度を合計して行う。
・遅刻は3回で1回の欠席とし、6回以上欠席した場合は単位を認定しない。
　グループによるプレゼンテーションの到達度　100点満点
　グループ学習の参加状況　(グループ学習の回を欠席すると1回につき10点減点)

【テキスト】
・プリントを使用する。

【参考文献】
・神代浩『困ったときには図書館へ　図書館海援隊の挑戦』悠光堂, 2014
・岡本真『未来の図書館、はじめませんか？』青弓社, 2014
・『ライブラリー・リソース・ガイド (LRG) 』第1号ほか, ライブラリー・リソース・ガイド, 2012～2015

図書館情報資源概論

担当教員 山口　真也

対象学年 1年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
図書館活動の基本的なあり方を、図書館情報資源（資料・メディア）という側面に注目して、収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に学ぶとともに、関連領域である出版と流通のあり方について理解し、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①図書館資料（情報資源）の種類を理解し、図書館サービスの多様性と関連づけて説明することができる。②図書館資料の収集・提供をめぐっては、「価値」と「要求」という2つの立場があることを理解し、現実に起こる様々な問題をこの2つの立場に区分して考えることができる。③図書館資料をめぐる制度である日本独自の出版・流通制度の特徴を理解し、その意義と問題点を説明することができる。④様々な資料を活用して課題レポートを作成することで、図書館資料の必要性を利用者の視点から理解することができる。

週	授業の内容
1	ガイダンス・図書館情報資源（資料）の定義
2	図書館資料（情報資源）の種類（1）図書①
3	図書館資料（情報資源）の種類（2）逐次刊行物（雑誌）マガジンとジャーナルの違い
4	図書館資料（情報資源）の種類（3）逐次刊行物（新聞）新聞は事実を伝えるか？
5	図書館資料（情報資源）の種類（4）小冊子　地域資料と灰色文献
6	図書館資料（情報資源）の種類（5）書写資料・視覚障害者向け資料
7	図書館資料（情報資源）の種類（6）電子書籍・インターネットサービス、電子図書館
8	図書館資料（情報資源）の収集　収集方針・選択理論・ツール
9	図書館資料（情報資源）の整理（1）分類、人文・社会・自然科学分野の資料とは？
10	図書館資料（情報資源）の整理（2）目録・排架・装備
11	図書館資料（情報資源）の収集　資料保存
12	図書館資料とパブリックサービス（1）図書館の自由との関わり・資料収集、提供の自由とは？
13	図書館資料とパブリックサービス（2）事例紹介：BL本・自殺マニュアル・古地図類
14	図書館資料をめぐる諸制度：　取次、再販制の意義と問題
15	授業のまとめ・到達度の確認、授業評価アンケート
16	試験

【履修上の注意事項】
・図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。後期から受講を始める人は履修ガイドをよく読むこと。
・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出題する演習問題（自由提出課題）に積極的に取り組みましょう。課題を作成する際は、インターネットに安易に頼るのではなく、多様な図書館資料を活用するように心がけましょう。

【評価方法】
定期テスト･･･70点（期末試験の到達度により評価）
平常点･･･30点（授業時間中の提出物の到達度により評価）
レポート･･･30点　（※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある）

【テキスト】
1回目の授業で指示します。
適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

図書館文化論

担当教員 吉田　肇吾

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
生涯学習社会・情報社会における図書館について、国策レベルの公共図書館の内容と変化の方向性（理想像）を把握した上で、現在の公共図書館における課題・問題点のとらえ方の基礎を学ぶ。
さらに、最新の図書館情報学の学問的成果や、実際的な図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：科目内容と進め方の説明
2	公共図書館の基礎知識１
3	公共図書館の基礎知識２
4	公共図書館の基礎知識３
5	レポートA（図書館像①近未来像）：提示・説明
6	レポートA（図書館像①近未来像）：発表
7	レポートA（図書館像①近未来像）：発表・まとめ
8	レポートB（図書館像②図書館政策）：提示・説明
9	レポートB（図書館像②図書館政策）：発表
10	レポートB（図書館像②図書館政策）：発表・まとめ
11	レポートC（図書館像③理想と現実）：提示・説明
12	レポートC（図書館像③理想と現実）：発表
13	レポートC（図書館像③理想と現実）：発表・まとめ
14	レポートD（図書館の現状と課題）：提示・説明
15	全体のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】
１．３年次から「図書館情報学ゼミ(吉田ゼミ)」を専攻する学生のための基礎ゼミと位置づける科目であるため、受講許可対象者は「図書館情報学ゼミ」を希望する学生(２年生のみ)とする。
２．履修する学生は、２年次前期までに司書資格の基礎的科目「図書館概論（前期）」、「図書館サービス概論（前期）」、「図書館情報資源概論（後期のため同時履修）」を必ず履修しておくこと。

【評価方法】
出席状況及び課題レポートの提出・発表、授業への参加姿勢による総合評価とする。

【テキスト】
必要に応じて、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

日本近代文学史Ⅰ

担当教員 –大城　貞俊

対象学年 １年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本の近代文学史をジャンルごと学習する。このことによって、日本の言語文化に対する理解を深め知識を豊かにする。特に中学校や高等学校国語科教科書の定番教材となっている文学作品を多角的に読み理解することによって、人間と社会との関わりについて深く考察させ、将来の豊かな生活を営む上での基盤にしたい。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	はじめに。日本近代文学史総説
2	日本近代文学史概説(1)小説分野
3	日本近代文学史概説(2)詩分野
4	日本近代文学史概説(3)短歌分野
5	日本近代文学史概説(4)俳句分野
6	夏目漱石と「こころ」
7	森鴎外と「舞姫」
8	芥川龍之介と「羅生門」
9	太宰治と「走れメロス」
10	中島敦と「山月記」
11	日本戦後文学史概説(1)小説①
12	日本戦後文学史概説(2)小説②
13	日本戦後文学史概説(3)詩
14	日本戦後文学史概説(4)短歌
15	日本戦後文学史概説(5)俳句
16	まとめ・評価・レポート提出

【履修上の注意事項】
(1)文学に関心を寄せる者であれば、広く受け入れる。
(2)事前事後の学習として、数多くの文学作品を読むことが望ましい。

【評価方法】
(1)日本の近代・現代文学に関するレポートによる評価（70％）
(2)小課題やペーパーテスト、及び出欠状況による評価（30％）
(3)授業時数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

【テキスト】
(1)特になし

【参考文献】
(1)各回の講座に関する作者の作品。
(2)田中実『小説の力』2010年、大修館。

日本近代文学史Ⅱ

担当教員 –大城　貞俊

対象学年 １年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の近代、現代の文学史を学ぶ。そのためにそれぞれの時代で活躍した作家の作品をジャンルごとに概観し、土地と結びついた沖縄文学の特質や言語文化について理解を深める。また沖縄の文学作品を学ぶことによって、社会や時代と関わる人間の普遍的な姿を考察させたい。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	はじめに。沖縄古典文学概説。組踊など。
2	沖縄近代文学概説(1)散文
3	沖縄近代文学概説(2)韻文
4	戦後の詩人たち(1)40年代
5	戦後の詩人たち(2)50年代
6	戦後の詩人たち(3)60年代
7	戦後の詩人たち(4)70年代
8	戦後の詩人たち(5)80年代
9	戦後の詩人たち(6)90年代～現代
10	戦後の歌人たち
11	戦後の俳人たち
12	現代小説の沃野(1)芥川賞作家①
13	現代小説の沃野(2)芥川賞作家②
14	現代小説の沃野(3)池上永一など
15	現代小説の沃野(4)表現の新しい胎動
16	まとめ・評価・レポート提出

【履修上の注意事項】

(1)沖縄文学に関心を寄せる者であれば、広く受け入れる。
(2)事前事後の学習として、沖縄の作家たちの作品を数多く読むこと。

【評価方法】

(1)沖縄の文学に関するレポート提出による評価（70%）
(2)小課題やペーパーテスト、及び出欠状況による評価（30%）
(3)授業時数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

【テキスト】

(1)特になし。授業の際にレジュメを配布する。

【参考文献】

(1)『「沖縄文学」への招待』琉大ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ、2015年、沖縄タイムス社
(2)『沖縄文学選』2003年、勉誠出版。

日本芸能史

担当教員 −宮城　茂雄

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本の芸能の中で、沖縄の芸能の存在は重要な位置にある。それは国が指定する無形文化財の指定数からもわかる。その指定を受けている「組踊」や「琉球舞踊」などは、首里城を中心に琉球の士族(ユカッチュ)によって深められてきた。
その発達過程において、「能・狂言」「歌舞伎」など日本古典芸能の影響を受けているといわれている。
本講義では、能楽・歌舞伎・日本舞踊・上方舞などを中心に講義をすすめ、沖縄の古典芸能との関係性を考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	講義説明
2	組踊の創始者玉城朝薫の生涯
3	能楽概説
4	能楽概説
5	能鑑賞「船弁慶」
6	能の表現「謡」
7	能の表現「仕舞」
8	作品研究「道成寺」①道成寺説話について
9	作品研究「道成寺」②詞章講読
10	作品研究「道成寺」③詞章講読
11	作品研究「道成寺」④映像鑑賞
12	作品研究「道成寺」⑤組踊「執心鐘入」との比較
13	「京鹿子娘道成寺」概説・詞章講読
14	「京鹿子娘道成寺」②映像鑑賞
15	舞と踊「地唄舞」・三線音楽と三味線音楽「地唄・長唄」
16	試験

【履修上の注意事項】
出席日数が３分の２に満たない場合は、原則として単位を認めない。
芸能鑑賞のため、視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を２回程度予定している。

【評価方法】
出席・レポート・試験

【テキスト】
テキストはない。随時プリントを配布する。

【参考文献】
『能狂言事典』平凡社
『組踊への招待』矢野輝雄著　琉球新報社

日本言語史Ⅰ

担当教員 -仲原　穣

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本授業では，日本語の音韻，語法，語彙，文字・表記の各分野の歴史を概観していきます。
日本語がどのように生じ，どのように発達したか，また，なぜ衰え滅んだかを考えることで，日本語がどのような特徴を持つことばなのかを理解できるようになります。
日本言語史の基礎的な知識を身につけることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ガイダンス：講義内容の確認と登録調整／上代の日本語(1)　音韻①
2	上代の日本語(2)（奈良時代までの日本語の音韻②，文字）
3	上代の日本語(3)（奈良時代までの日本語の文法）
4	上代の日本語(4)（奈良時代までの日本語の語彙）
5	中古の日本語(1)（平安時代の日本語の音韻）
6	中古の日本語(2)（平安時代の日本語の文字，文法①）
7	中古の日本語(3)（平安時代の日本語の文法②）
8	中世の日本語(1)（院政期，鎌倉時代，室町時代の日本語の音韻）　／中間試験
9	中世の日本語(2)（院政期，鎌倉時代，室町時代の日本語の文法）
10	中世の日本語(3)（院政期，鎌倉時代，室町時代の日本語の語彙）
11	近世の日本語(1)（江戸時代の日本語の音韻，文字）
12	近世の日本語(2)（江戸時代の日本語の文法）
13	近世の日本語(3)（江戸時代の日本語の語彙）
14	近現代の日本語(1)（明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の音韻・表記）
15	近現代の日本語(2)（明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の文法・語彙）
16	期末試験

【履修上の注意事項】
この授業で日本言語史に関する知識をきちんと理解していないと，後期の日本言語史Ⅱで行う発表のテーマを理解できず，配布資料の作成，発表，質疑応答に積極的に取り組めなくなります。本講義で日本言語史の概略を理解するためには，テキストだけでなく，配布するプリントを講義後に読み返す必要があります。また，講義の前日に１週間前の講義内容を見直しておくのもとても効果的です。さらに参考文献にも目を通しておくと，授業では取り上げなかった内容を補足することで，講義と結びつけて日本言語史について深く学ぶことができます。

【評価方法】
中間試験（30%）＋期末試験(50%)＋講義への参加度[リアクションペーパーの提出](20%)によって成績を判します。ただし，講義回数の３分の１を超える欠席があった場合はその資格を得られません。

【テキスト】
『日本語の歴史』（山口仲美[著]，岩波書店，2006年）

【参考文献】
『日本語史』（沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤[著]，おうふう，1989年）
『はじめて読む日本語の歴史』（沖森卓也[著]，ベレ出版，2010年）
『新訂 国語史要説』（土井忠夫・森田武[著]，修文社，1975[1955]年）※その他は講義にて紹介します。

日本言語史Ⅱ

担当教員 –仲原　穣

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】
　日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づけます。日本語史の重要なテーマのなかから受講生は発表するテーマを選択します。発表では，まずテーマについてテキストや研究書で理解を深めます。そしてそのテーマを実証する文献を捜しだし、教科書や参考文献に書かれてある日本言語史の解説が正しいのかを検証し、その結果を発表します。発表者以外の学生は発表を聞き、質疑します。そのようにして、帰納法、実証方法を収得するのが本講義の目標です。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス：講義方法・テーマの確認と担当決め、日本言語史の区分
2	実例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その１）
3	古典語の文献とその特徴
4	現代語の文献とその特徴
5	実例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その2）
6	発表と質疑：上代の音韻
7	発表と質疑：上代の文法
8	発表と質疑：中古の音韻
9	発表と質疑：中古の文法
10	発表と質疑：中世の音韻　◎レポート中間提出
11	発表と質疑：中古の音韻
12	発表と質疑：近世の音韻
13	発表と質疑：近世の文法
14	発表と質疑：近現代の音韻
15	発表と質疑：近現代の文法
16	期末試験　◎レポート最終提出日　／　発表と質疑（予備日）

【履修上の注意事項】
《重要》本講義は「日本言語史Ⅰ」を履修し、日本言語史の基礎知識を得た学生を対象にした講義です。
　受講生の一人ひとりが各発表者のテーマについて、自分がもしこのテーマを担当していたらどのように取り組み、どのように分析するのかという視点で発表を聞き、討議に積極的に臨んでください。
なお、発表者のレジュメは発表の１週間前に受講生全員へ配布されるので、講義前に隅々まで目を通し、発表内容の把握、質疑の見込み見込みなどの準備をして発表を聞くように事前に取り組んでください。

【評価方法】
　研究発表([レジュメ・発表・質疑]50%)＋レポート[授業記録](35%)＋討議[授業参加](15%)により、総合的に判断して成績をつけます。ただし、講義回数の３分の１を超える欠席があった場合はその資格を失います。
　特に研究発表の配点が大きいため、少なくとも発表予定日の１ヶ月以上前から準備に取りかかってください。テーマ内容や取り組む文献の選択などで悩んだ場合は、講義後に担当教員に質問してください。

【テキスト】
沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤（1989）『日本語史』おうふう

【参考文献】
土井忠夫・森田武（1975[]1955）『新訂 国語史要説』修文社　※最重要 参考文献！
沖森卓也（2010）『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版
山田俊雄・築島裕・小林芳規(1995[1965])『新潮国語事典 ―現代語・古典― 第二版』新潮社

日本古典文学史

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
古代・中世・近世文学の流れを辿り、それぞれの歴史性について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	古代・中世・近世文学の概観
2	古代文学の概要
3	万葉集の世界一
4	万葉集の世界二
5	古今集の世界
6	平安朝文学の世界
7	中世文学の概要
8	中世の和歌
9	中世の軍記
10	平家物語の世界
11	近世文学の概要
12	近世の俳諧
13	近世の小説
14	雨月物語の世界
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】
電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】
三回のレポートで評価する。

【テキスト】
『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】
そのつど指示する。

日本語音声学

担当教員 -仲間　恵子

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語との比較を行う。日本語音声学Ｉでの講義内容をふまえ、日本語標準語の音声の考察を深める。また、音声学における国際音声字母（ＩＰＡ）の理論と表記法について日本語音声を主な具体例として学ぶ。

【授業の展開計画】
1 現代代日本語標準語の規範的な音声
2 母音１（みじか母音音素となが母音音素）
3 母音２（連母音／二重母音と表記法）
4 母音３（標準語の母音音素とジョーンズの基本母音）
5 母音４（母音の国際音声表記(IPA)について）
6 テスト（第１回）
7 子音１（音節を開く子音音素／音節を閉じる子音音素）
8 子音２（直音と拗音）
9 子音３（直音と合拗音）
10 子音４　つまる音（促音）
11 音節１　はねる音（撥音）の調音と音声表記
12 音節２（日本語のみじかい音節とながい音節）
13 音節とアクセント
14 アクセント
15 アクセントとイントネーション
16 テスト（第２回）

【履修上の注意事項】
項　講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさししめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】
テスト２回（各４５％）。以上で評価の９０％とする。残り１０％を出席状況で判断する。

【テキスト】
テキスト　「日本語　現代（音韻）」『言語学大辞典第４巻』上村幸雄
※テキストは教員で用意する。

【参考文献】
（１）『ことばの科学入門』ＧＬＯＲＩＡ　Ｊ．ＢＯＲＤＥＮ／ＫＡＴＨＥＲＩＮＥ　Ｓ．ＨＡＲＲＩＳ　廣瀬肇訳　メディカルリサーチセンター　（２）『日本語音声の研究　全７巻』杉藤美代子　和泉書院

日本語学概論

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この授業では、日本語の音声の特徴および文字と表記の問題について解説していきます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	文字と音声、日本語の音声の特徴①
3	日本語の音声の特徴②
4	日本語の音声の特徴③
5	日本語の文字、かな文字と発音の変化(1)：上代
6	かな文字と発音の変化(2)：中古
7	かな文字と発音の変化(3)：中世～近世
8	中間試験
9	漢字の歴史と分類
10	漢字の字体、漢語の構成
11	音読みと訓読み(1)
12	音読みと訓読み(2)
13	漢字の問題：当用漢字と常用漢字
14	仮名遣いと漢字の送り仮名
15	ローマ字と外来語の表記
16	期末試験

【履修上の注意事項】
出席と授業への参加度を重視します。
5回以上欠席した場合は原則として単位を認めないので、注意。
講義の中で、予告なしに小テストを行うことがあります。

【評価方法】
出席＆授業への参加度・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)
※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】
テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。

【参考文献】
仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂、など。
その他、授業中に適宜紹介します。

日本語学入門

担当教員 下地　賀代子

対象学年 1年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この「入門」では、語彙・意味を中心に解説していきます。また、言語の地域差に関わって文法についても少し触れます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	「言語」とは？「日本語」とは？
3	文・語・形態素、品詞について
4	語彙とは、語の構成
5	語種と語感(1)：語種の出自とその特徴、和語と漢語
6	語種と語感(2)：外来語・混種語
7	語の位相(1)：集団語・役割語、性差とことば
8	語の位相(2)：世代差とことば、場面とことば
9	中間試験
10	語の位相(3)：地域差とことば、琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ
11	意味とは、意味研究のいろいろ
12	語彙の意味関係(1):包摂関係、類義関係
13	語彙の意味関係(2):対義関係
14	語彙の意味関係(3):意味の変化と多義語の成立、比喩、慣用表現
15	「意味」を捉える
16	期末試験

【履修上の注意事項】
出席と授業への参加度を重視します。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
講義の中で、予告なしに小テストを行うことがあります。

【評価方法】
出席＆授業への参加度・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)
※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】
テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。

【参考文献】
仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、宮地裕 他編著『講座日本語と日本語教育第６巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院、など。
その他、授業中に適宜紹介します。

日本語表現法演習 I

担当教員 -佐渡山　美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 –佐渡山　美智子

対象学年 １年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語文法基礎Ⅰ

担当教員 -田仲　一枝

対象学年 1年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
（1）日本の古典を読むための基礎力を養成する。
（2）そのために日本語古典文法を学びなおす。
（3）日本語古典文法を使って漢文訓読の基礎力をつける。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ なぜ古典を学ぶか。文法・古典文法とはなにか。「日本語古典文法」とはいつの時代のものか
2	講義と演習①現在高等学校で使われている古典文法本等を参考に、古典文法の言語体系をとらえる
3	講義と演習②各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
4	講義と演習③各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
5	講義と演習④各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
6	講義と演習⑤各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
7	講義と演習⑥各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
8	講義と演習⑦各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
9	講義と演習⑧各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
10	講義と演習⑨漢文訓読について。
11	講義と演習⑩漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
12	講義と演習⑪漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
13	講義と演習⑫漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
14	講義と演習⑬漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
15	講義と演習⑭漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
16	テスト

【履修上の注意事項】
（1）　後期「日本語古典文法Ⅱ」も継続履修する。
（2）　Ａ４サイズのノートを準備し、指示に応じて提出する。
（3）　読解演習のときは、古語辞典、漢和辞典等を持参する。
（4）　授業時に配布される資料は、後で追加配布等はできません。

【評価方法】
出席点　＋　テスト点　＋　ノート・提出物点　　＝　成績点

【テキスト】
『楽しく学べる　基礎からの古典文法』　（第一学習社）　約6000円
『明説 漢文ノート』　（尚文出版）　約550円
『小倉百人一首』　（文英堂）　約550円

【参考文献】
国語便覧、古語辞典、漢和辞典

日本語文法基礎Ⅱ

担当教員 -田仲　一枝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
（1）日本の古典を読むための基礎力を養成、強化する。
（2）そのために日本語古典文法を学びなおし、言語について理解を深める。
（3）日本語古典文法を使って漢文訓読の基礎力をつけ、読解力を伸ばす。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ガイダンス 前期の学習に引き続き、文法の知識を深め、読解練習をしつつ古典文法全体を把握する
2	講義と演習①付属語（助動詞）
3	講義と演習②付属語（助動詞）
4	講義と演習③付属語（助動詞）
5	講義と演習④付属語(助動詞)
6	講義と演習⑤付属語（助詞）
7	講義と演習⑥付属語（助詞）
8	講義と演習⑦古文読解練習
9	講義と演習⑧敬語について文法の面からアプローチする。
10	講義と演習⑨和歌について古典文法の面からアプローチする。修辞法を理解する。
11	講義と演習⑩漢文訓読について。
12	講義と演習⑪訓読実習をする。
13	講義と演習⑫訓読実習をする。
14	講義と演習⑬訓読実習をする。
15	講義と演習⑭訓読実習をする。
16	テスト

【履修上の注意事項】
（1）　前期「日本語古典文法Ⅰ」を履修していること。
（2）　Ａ４サイズのノートを準備し、指示に応じて提出する。
（3）　読解演習のときは、古語辞典、漢和辞典等を持参する。
（4）　授業時に配布される資料は、後で追加配布等はできません。

【評価方法】
出席点　＋　テスト点　＋　ノート点　　＝　成績点

【テキスト】
『改訂版　楽しく学べる　基礎からの古典文法』　（第一学習社）　約600円
『明説漢文ノート』　（尚文出版）　約550円
『小倉百人一首』　（文英堂）　約600円

【参考文献】
『国語便覧』『古語辞典』『漢和辞典』

日本語文法論 I

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「文法」と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。そして「文法」を身につけているからこそ、私たちはその言語を自由に操り、会話を成り立たせることができるのです。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。Ｉでは、俗に「学校文法」と呼ばれる日本語文法の考え方の１つをとりあげます。学校教育で学んできた「文法」を見直し、そこに含まれる問題点について議論していきましょう。

【授業の展開計画】
※講義の進捗状況によって内容が変わる場合があります。

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	文法とは、日本語文法研究史①
3	日本語文法研究史②
4	日本語文法研究史③、「学校文法」とは
5	文・文節・単語、文の種類
6	文の部分―種類と役割
7	品詞、詞と辞
8	名詞と格助詞、係助詞①
9	名詞と格助詞、係助詞②
10	代名詞、コソアド
11	動詞と助動詞①
12	動詞と助動詞②
13	形容詞と形容動詞、副詞
14	まとめとディスカッション①
15	まとめとディスカッション②
16	期末レポート提出

【履修上の注意事項】
出席と授業への参加度を重視します。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

【評価方法】
出席＆リアクションペーパー(50%)＋期末レポート(50%)

【テキスト】
第１回目のオリエンテ―ションにおいて指定します。

【参考文献】
田近洵一(2012)『くわしい国文法 中学１～３年［新学習指導要領対応］』文英堂、山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、大野晋(1978)『日本語の文法を考える』岩波書店、など。
その他、適宜紹介します。

日本語文法論Ⅱ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「文法」と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。そして「文法」を身につけているからこそ、私たちはその言語を自由に操り、会話を成り立たせることができるのです。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。Ⅱでは、Ⅰで見た「学校文法」とは異なる視点から構築された文法論について説明していきます。文法を通して、言語研究の面白さ、奥深さを感じとってもらいたいです。

【授業の展開計画】
※講義の進捗状況によって内容が変更になる場合があります。

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	「学校文法」のおさらい
3	文と単語、文のくみたて
4	品詞について
5	名詞論：名詞とは、格①
6	名詞論：格②
7	名詞論：代名詞から指示語へ①
8	名詞論：代名詞から指示語へ②
9	動詞論：動詞とは、ヴォイス①
10	動詞論：ヴォイス②
11	動詞論：テンスとアスペクト①
12	動詞論：テンスとアスペクト②
13	動詞論：テンスとアスペクト③
14	形容詞とは、形容詞の種類
15	副詞とは、陳述副詞
16	期末レポート提出

【履修上の注意事項】
「日本語文法論Ⅰ」を受講していること（必須）。
出席と授業への参加度を重視します。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

【評価方法】
出席＆リアクションペーパー(30%)＋小課題（20%）＋期末レポート(50%)

【テキスト】
高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房

【参考文献】
益岡隆志、田窪行則『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版、山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、鈴木重幸(1972)『日本語文法形態論』むぎ書房、など。
その他、適宜紹介します。

日本史概論 I

担当教員 -新城　俊昭

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
私たちが過去をふり返り，ある出来事について語ることは，現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば，現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは，その歴史評価を下している現在の目が，そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では，日本の原始・古代から近世初期までの歴史を，史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし，その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】
旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに，毎時間テーマを設定して学習を展開し，課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また，琉球・沖縄史にも視野を広げ，ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授業の内容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛島文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】
特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】
毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と，予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】
特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】
プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本史概論Ⅱ

担当教員 -新城　俊昭

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
私たちが過去をふり返り，ある出来事について語ることは，現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば，現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは，その歴史評価を下している現在の目が，そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では，日本の近世から現代までの歴史を，史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし，その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】
織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに，毎時間テーマを設定して学習を展開し，課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また，琉球・沖縄史にも視野を広げ，ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授業の内容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】
特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】
毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と，予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】
教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】
プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本文化特殊講義Ⅳ

担当教員 -國場　厚子

対象学年 ３年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
国語科における様々な文章教材を読むことによって、読解能力や論理的思考力の養成を目指し、読むことの技術および視点の深化を図る。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ガイダンス
2	日本の古典①
3	日本の古典②
4	日本の古典③
5	日本の古典④
6	中国の古典文学①
7	中国の古典文学②
8	中国の古典文学③
9	中国の古典文学④
10	評論①
11	評論②
12	評論③
13	小説①
14	小説②
15	小説③
16	期末考査

【履修上の注意事項】
(1)国語科教職課程履修者のみの履修を認める。
(2)辞典（国語辞典・古語辞典・漢和辞典）を必携すること。

【評価方法】
期末考査、出席状況、授業への参加状況により、総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
プリントを配布する。

日本文化特別講義 I

担当教員 -細田　明宏

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 集中
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本文化特別講義Ⅱ

担当教員 -西河内　泰靖

対象学年 ２年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本文化論 I

担当教員 葛綿　正一

対象学年 1年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。映像資料を活用する予定である。

【授業の展開計画】
1、文化論の陥穽
2～5、絵巻と日本文化
6～10、演劇と日本文化
11～14、映画と日本文化
15、まとめ

【履修上の注意事項】
電子辞書などを携帯するとよい。

【評価方法】
三回のレポートによって成績を評価する。

【テキスト】
秋山虔『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】
その都度、指示する。

日本文化論Ⅱ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義は日本文化に関する名著を読み解きながら、日本文化論の系譜を辿るものである。

【授業の展開計画】
1、日本文化論の名著
2・3、『菊と刀』を読む
4、小泉八雲を読む
5、『武士道』・『茶の本』を読む
6、『風土』・『「いき」の構造』を読む
7・8・9、菊池寛と大衆文化
10・11、外から見た日本文化
12・13・14、英語で日本文化を考える
15、まとめ

【履修上の注意事項】
電子辞書などを携帯するとよい。

【評価方法】
レポートによって評価する。

【テキスト】
菊池寛『藤十郎の恋・恩讐の彼方に』新潮文庫

【参考文献】
その都度、指示する。

日本文学概論

担当教員 葛綿　正一

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
文学研究の方法を学び、日本文学の特質について理解する。

【授業の展開計画】
1、文学研究の方法
2、文学と風景
3、文学と内面
4、文学と告白
5、文学と病気
6、文学と子供
7・8・9、課題小説を読む
10、文学と映画
11、文学と演劇
12・13・14、英語で日本文学を考える
15、まとめ

【履修上の注意事項】
電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】
レポートで評価する。

【テキスト】
森鴎外『山椒大夫・高瀬舟』新潮文庫

【参考文献】

日本文学特講Ⅰ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 3年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本語のテクストについて学び、文章や談話の仕組みを知る。
さらに、発話プロトコルの分析方法を学び、学習者の実態を検証する能力と姿勢を身につける。
実際に文学的文章教材における読みの交流を行い、交流の実体と学習課題について具体的に考察する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	日本語のテクストについて(1)
3	日本語のテクストについて(2)
4	日本語のテクストについて(3)
5	日本語のテクストについて(4)
6	日本語のテクストについて(5)
7	日本語のテクストについて(6)
8	日本語のテクストについて(7)
9	日本語のテクストについて(8)
10	読みの交流（ビデオ撮影・参観）
11	発話分析①
12	発話分析②
13	発話分析③
14	グループ発表・研究討議（課題分析）①
15	グループ発表・研究討議（課題分析）②
16	総括

【履修上の注意事項】
(1)教職課程受講者を対象とする。
(2)テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。
(3)授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。
※日本文学特講Ⅱと併せて受講するとよい。

【評価方法】
発表内容、討議への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
野村眞木夫,『日本語のテクストー関係・効果・様相ー』, ひつじ書房, 2000

【参考文献】
佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一,『文章・談話のしくみ』, おうふう, 2003
その他、適宜紹介する。

日本文学特講Ⅱ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
文学的文章における「読みの交流」の理論的モデルを学ぶと共に、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている文学的文章教材を取り上げ、読みの交流を促す学習課題について具体的に考察する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	文学教育とナラトロジー
3	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）①
4	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）②
5	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）③
6	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）④
7	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）⑤
8	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）⑥
9	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）⑦
10	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）⑧
11	文学教育とナラトロジー（グループ発表・研究討議）⑨
12	教材分析（グループ発表・研究討議）①
13	教材分析（グループ発表・研究討議）②
14	教材分析（グループ発表・研究討議）③
15	教材分析（グループ発表・研究討議）④
16	総括

【履修上の注意事項】
(1)教職課程履修者を対象とする。
(2)扱う作品を事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。
(3)授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。
※日本文学特講Ⅰと併せて受講するとよい（理解が深まる）。

【評価方法】
発表内容、討議への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
松本修,『文学の読みと交流のナラトロジー』, 東洋館出版社, 2006

【参考文献】
野村眞木夫,『日本語のテクストー関係・効果・様相ー』, ひつじ書房, 2000
その他、適宜紹介する。

日本文学を読むⅠ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ２年
単位区分 選必

開講時期 前期
授業形態
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。

【授業の展開計画】
１　ガイダンス　９　『宇治拾遺物語』の講読⑥
２　説話とは何か　10　『宇治拾遺物語』の講読⑦
３　『宇治拾遺物語』の類話について　11　『宇治拾遺物語』の講読⑧
４　『宇治拾遺物語』の講読①　12　『宇治拾遺物語』の講読⑨
５　『宇治拾遺物語』の講読②　13　『宇治拾遺物語』の講読⑩
６　『宇治拾遺物語』の講読③　14　『宇治拾遺物語』の講読⑪
７　『宇治拾遺物語』の講読④　15　『宇治拾遺物語』の講読⑫
８　『宇治拾遺物語』の講読⑤　16　テスト

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②毎時間、Ａ４一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得の必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

【評価方法】
単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷３＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、４００字詰原稿用紙換算１０枚以上とする。

【テキスト】
テキスト：中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円

【参考文献】

日本文学を読むⅡ

担当教員 田場　裕規

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講は鴨長明『発心集』の講読を行い、語彙、文法、表現、歌枕等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。また、仏教説話の背景や寺社、地名、人名などへの理解を深め、中世社会と仏教について考えていく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス（座席決め、講義の概要、評価方法、その他）
2	『発心集』の概説①
3	『発心集』の概説②
4	玄敏僧都、遁世逐電の事
5	同人、伊賀の国郡司に仕はれ給ふ事
6	平等供奉、山を離れて異州に趣く事
7	千観内供、遁世籠居の事
8	多武峰僧賀上人、遁世往生の事
9	高野の南筑紫上人、出家登山の事
10	小原田教懐上人、水瓶を打ち破る事　付けたり　陽範阿闍梨、梅の木を切る事
11	佐国、花を愛し蝶となる事　付けたり　六波羅蜜寺幸仙、橘の木を愛する事
12	神楽岡清水台、仏種房の事
13	天王寺聖、隠徳の事　付けたり　乞食聖の事
14	高野の辺の上人、偽って妻女を儲くる事
15	美作守顕能の家に入り来たる僧の事
16	テスト

【履修上の注意事項】
①無断欠席をしないこと。②指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。③古語辞典を必ず持参すること。
④追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得の必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

【評価方法】
単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷３＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『発心集』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、４００字詰原稿用紙換算１０枚以上とする。

【テキスト】

【参考文献】

日本文学を読むⅢ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】
1　ジェンダー論入門
　「勢力（power）」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」
2　樋口一葉「にごりえ」/ジェンダーと周縁性
3　与謝野晶子「みだれ髪」/ジェンダーと身体性の言説
4　田山花袋「蒲団」/ジェンダーと囲い込み
5　森鴎外「半日」/ジェンダーと〈母〉
6　長塚節「土」/ジェンダーと階級

【履修上の注意事項】
期末レポート以外に、発表、課題を２～３回課します。

【評価方法】
①試験（orレポート）　②課題・提出物　③出席

【テキスト】
『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】
そのつど指示します。

日本文学を読むⅣ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】
(導入) ジェンダー論入門Ⅱ
7　田村俊子「生血」/ジェンダーと〈性〉
8　平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」/女性同性愛というセクシュアリティ
9　夏目漱石「こゝろ」/男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー
10　菊池寛「父帰る」/ジェンダーと家父長制
11　有島武郎「或る女」/「ジェンダーとセクシュアリティ
12　谷崎潤一郎「痴人の愛」/ジェンダーとメディア

【履修上の注意事項】
期末レポート以外に、課題を３～４回課します。

【評価方法】
①試験（orレポート）　②課題・提出物　③出席

【テキスト】
『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】
そのつど指示します。

認知言語学

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年
単位区分 選必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業では、言語によるコミュニケーションのしくみ（の一端）を理解することを目標とします。具体的には、認知意味論という分野の基礎的な内容の概説を通して、「意味」について理解・考察を深めていくことを目標とします。また社会言語学や談話分析などの諸分野からも話題を取り上げます。講義の中では、これらのテーマについてのグループ・ワークやリサーチも適宜行います。　そして、これらの活動の中から興味を持ったテーマを各自選び、調査を行うなどして実例を集め、検証・考察した内容を期末レポートとして提出します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエン、意味のいろいろ、生成文法と認知意味論
2	認知言語学の基本的な考え方①
3	認知言語学の基本的な考え方②
4	認知言語学の基本的な考え方③
5	意味の捉え方①
6	意味の捉え方②
7	意味の拡張：比喩①
8	意味の拡張：比喩②
9	意味の拡張：比喩③
10	意味の拡張：比喩④
11	意味の拡張：多義語の分析
12	意味の拡張：文法化
13	類義語①
14	類義語②
15	類義語の分析
16	期末レポート提出

【履修上の注意事項】
講義への参加度を重視。講義の進度に合わせて、グループワークも行っていきます。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

【評価方法】
出席30％＋授業参加(グループワークなど)40％＋期末レポート30％
により、総合的に判断して成績をつける。

【テキスト】
町田健編／籾山洋介著『認知意味論のしくみ』研究社（2002）
※ただし、購入は義務ではない。

【参考文献】
久島茂『《物》と《場所》の意味論』くろしお出版（2002）、深田智・仲本康一郎『概念化と意味の世界』研究社（2008）、井上京子『もし「右」や「左」がなかったら』大修館書店（1998）、など。
その他、講義内で適宜紹介します。

比較文化論

担当教員 兼本　敏

対象学年 ２年
単位区分 選必

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この講義では、各自が持つ異文化に対する好奇心や憧れを自文化を比較することで自分の文化への理解を深め、
1.文化を比較するとは何であるのか
2.文化をどのように比較するか
3.どのように役に立てるか
以上の３点を明確にし、実感することである。

【授業の展開計画】
１．オリエンテーション　(講義の目的と諸注意)
２．文化とは？　比較と対照
３．比較・対照の事例紹介（先輩方の発表事例を中心に）
４．古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
５．古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
６．文化の諸相（1）　地理・気候と交通
７．文化の諸相（2）　地理・気候と交通
８．文化の諸相（１）　世界の宗教と自然
９．文化の諸相（２）　世界の宗教と自然
10．日本と西洋の接触（１）
11．日本と西洋の接触（２）
12．レポートの書き方指導
13．比較・対照のテーマ設定
14．比較・対照のテーマ設定
15．比較・対照のテーマ設定

【履修上の注意事項】
1）欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席をしないこと)
2）欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】
小テスト2回（各１０％）
レポート　　（８０％）

【テキスト】
特に指定しない。
講義ではPPTで講義の要点を提示する。

【参考文献】
高校までに習得した地理（地形・気候）や歴史（文化・宗教）を確認しておくこと。

文化情報処理入門

担当教員 山口真也（前半11回）、芳山紀子（後半5回）

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本文化学科の専門課程で修得する日本文化、琉球文化、多文化間コミュニケーションに関する知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを目指すとともに、文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門Ⅱ」での研究発表に活かすことができる。1回目～11回目は山口担当、12回目～16回目は芳山担当。

週	授業の内容
1	ガイダンス・PCの基本構造・基本操作｜日本語入力・ファイルの保存と削除・フォルダ管理
2	Wordの基本操作①｜ホームタブ(フォント・段落)の操作
3	Wordの基本操作②｜ホームタブ(スタイルの定義・編集・クリップボード)の操作
4	文献検索ガイダンス①｜理論編(図書館・DBを使った文献収集方法)
5	文献検索ガイダンス②｜実践編(図書館での文献検索演習)
6	Wordの基本操作③｜挿入タブ(表・図)の操作(1)　基本操作編
7	Wordの基本操作④｜挿入タブ(表・図)の操作(2)　応用編
8	Wordの基本操作⑤｜挿入タブ(図形・スクリーンショット・Word Art)の操作
9	Wordの基本操作⑥｜ページレイアウト・参考資料(脚注)・校閲
10	プレゼンテーションソフトの基本操作｜写真、グラフの挿入・アニメーション・効果音設定
11	実力判定試験(キータッチ＋Word)
12	Excelの基本操作（画面構成／データの種類と入力の規則他）
13	Excelの表計算機能の活用①（基礎的な関数／相対参照と絶対参照／演習問題）
14	Excelのグラフ機能とデータベース機能①（単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成／並べ替え）
15	Excelのデータベース機能②　（フィルター／フォーム／複雑な条件抽出／演習問題）
16	Excelの表計算機能の活用②　（条件判断／端数処理／順位付け）　実力判定ミニ試験(Excel)

【履修上の注意事項】
1）学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
2）日本語入力の練習は各自行うこと。速度が上がらない場合は相談に来ること。
3）授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座（Word文書処理技能認定試験2級）を実施する。参加を希望する学生は予定をあけておくこと。

【評価方法】
定期テスト･･･60点　（山口担当回・芳山担当回、それぞれでテストを実施する）
レポート･･･40点（単元ごとに課す課題の提出状況、文献検索ガイダンスでの取り組みを評価）

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
適宜指示する。

文化テクスト論 I

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ２年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】
　文化テクスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。前期の文化テクスト論 I では、主としてジェンダー理論の基礎を学び、文化における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、ポスト・コロニアル等の視点から考察する予定です。

【授業の展開計画】
1　ジェンダー理論入門
2　「男」「女」とは何か
3　歴史的な議論（１）
4　歴史的な議論（２）
5　性別の起源
6　性差・ステレオタイプ・差別
7　性役割と社会的規範
8　性のグラデーション
9　映画の表象分析（１）
10　映画の表象分析（２）
11　映画の表象分析（３）
12　多様な文化現象を考える

【履修上の注意事項】
レポート、提出物を４～５回課します。

【評価方法】
①試験（orレポート）　②課題・提出物　③出席

【テキスト】
プリント使用。

【参考文献】
参考図書・文献は、そのつど指示します。

文化テクスト論Ⅱ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 ２年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テクスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。文化テクスト論Ⅱでは、実際の文学テクストや映像（映画、写真、ポスター、絵画etc.）における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、クィア・スタディーズ、ポスト・コロニアル等の視点から分析、考察する予定です。

【授業の展開計画】

1　多様な世界の中で生きるということ
2　クィア理論の射程
3　映画「X―men」の表象分析
4　男同士の絆／ホモソーシャルな欲望（Ｅ・Ｋ・セジウィック）
5　映画「ＢＲＯＴＨＥＲ」の表象分析
6　ハリウッド映画の「ミソジニ―」（女性嫌悪）
7　「強制異性愛社会」と「ホモフォビア」（同性愛嫌悪）
8　微視的な政治、権力、監視etc.
9　ジェンダー・トラブル（ジュディス・バトラー）他
10　「沖縄」／ポスト・コロニアル／ジェンダー／セクシュアリティ
11　文化表象の分析（1）
12　文化表象の分析(2)
13　文化表象の分析（3）

【履修上の注意事項】

レポート・課題を４～５回課します。

【評価方法】

①試験（orレポート）　②課題・提出物　③出席

【テキスト】

プリントを使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

文学実作演習

担当教員 −大城 貞俊

対象学年 ３年
単位区分 選択
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
文学作品の実作に必要な表現の方法や表記の基本を学ぶ。実作演習にあたっては、グループ学習を取り入れて相互交流を行い、多様なジャンルに挑戦させたい。創作した作品については、合同で印刷製本し、書くことの楽しさと意義を学ばせる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	はじめに。書くことの意義
2	様々な表現法と表記の留意点
3	詩をつくってみよう(1)変身作文
4	詩をつくってみよう(2)題名入替え
5	小説を書いてみよう(1)絵を見て小説を書く
6	小説を書いてみよう(2)詩を読んで小説を書く
7	小説を書いてみよう(3)主人公を代えて小説を書く
8	文学作品の様々な表現と実験(1)詩歌
9	文学作品の様々な表現と実験(2)小説
10	短歌・俳句に挑戦しよう
11	オリジナルな作品の創作と合評(1)小説
12	オリジナルな作品の創作と合評(2)詩
13	オリジナルな作品の創作と合評(3)短歌
14	オリジナルな作品の創作と合評(4)俳句
15	作品集の編集と印刷製本
16	まとめ・評価・レポート提出

【履修上の注意事項】
(1)文学作品の創作に関心を寄せる者であれば、広く受け入れる。
(2)事前事後の学習として、数多くの文学作品を読むことが望ましい。

【評価方法】
(1)オリジナルな創作作品の提出による評価（60%）
(2)小課題やペーパーテスト、及び出欠状況による評価（40%）
(3)授業時数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

【テキスト】
(1)特になし

【参考文献】
(1)特になし

プロジェクト演習

担当教員 –佐渡山　美智子

対象学年 1年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ポップカルチャー論

担当教員 -久万田　晋（6回）、土屋誠一（5回）、大胡太郎（5回）

対象学年 １年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門Ⅰ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 １年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・クラス開き
2	自己紹介・他者紹介
3	大学入門①
4	図書館オリエンテーション
5	大学入門②、要約の練習
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①、資料の読み取り方
9	意見文の書き方②、意見を述べる（1）
10	意見文の書き方③、意見を述べる（2）
11	こころの健康ガイダンス
12	レポートの書き方①
13	レポートの書き方②
14	キャリアガイダンス
15	前期のまとめ、自己点検、夏休みの目標設定
16	

【履修上の注意事項】
欠席する場合は必ず事前に連絡すること、無断欠席は厳禁。
欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
総合的に判断する。

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
そのつど、指示します。

リテラシー入門 I

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】
第1回　オリエンテーション・クラス開き
第2回　自己紹介
第3回　大学入門①
第4回　図書館オリエンテーション
第5回　大学入門②
第6回　要約文の書き方①
第7回　要約文の書き方②
第8回　意見文の書き方①
第9回　意見文の書き方②
第10回　意見文の書き方③
第11回　こころの健康ガイダンス
第12回　レポートの書き方
第13回　各ゼミごとの学習
第14回　キャリアガイダンス
第15回　まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
2)　欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門Ⅰ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・クラス開き
2	自己紹介
3	大学入門①
4	図書館オリエンテーション
5	大学入門②
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①
9	意見文の書き方②
10	意見文の書き方③
11	こころの健康ガイダンス
12	レポートの書き方
13	各ゼミごとの学習
14	キャリアガイダンス
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定
16	

【履修上の注意事項】
(1)　欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
(2)　欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門Ⅰ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 1年
単位区分 必

開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本授業は、1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・クラス開き・授業の目標設定、MTのグループ分け
2	自己紹介・他者紹介
3	大学入門①
4	大学入門②
5	大学入門③，要約の練習
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①:資料の読み取り方
9	意見文の書き方②：意見を述べる(1)
10	こころの健康ガイダンス（予定）
11	意見文の書き方③：意見を述べる(2)
12	レポートの書き方
13	キャリアガイダンス（予定）
14	ゼミごとの学習
15	前期のまとめ、1学期間の取り組みの自己点検、到達度の確認、夏休みの目標設定
16	（予備日）

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡すること。（無断欠席は厳禁）
2)　欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。
3)　授業スケジュールはあくまでも予定であり、変更が生じる場合もある。

【評価方法】
出席状況、課題、クラスへの参加度をふまえ、総合的に判断します。

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門Ⅰ

担当教員 西岡　敏

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 前期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・クラス開き
2	自己紹介
3	大学入門①
4	図書館オリエンテーション
5	大学入門②
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①
9	意見文の書き方②
10	意見文の書き方③
11	こころの健康ガイダンス
12	レポートの書き方
13	各ゼミごとの学習
14	キャリアガイダンス
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定
16	予備日

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
2)　欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 葛綿　正一

対象学年 1年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本文化学に関する研究方法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	クラス開き、教員紹介
2	研究発表の方法
3	レジュメの書き方、まとめ方
4	文章の引用方法
5	研究発表の方法
6	研究発表の見本
7	環境ガイダンス
8	研究発表①
9	研究発表②
10	研究発表③
11	研究発表④
12	研究発表⑤
13	研究発表⑥
14	キャリアガイダンス
15	まとめ、自己点検、春休みの目標設定
16	

【履修上の注意事項】
欠席する場合は必ず事前に連絡すること、無断欠席は厳禁。
欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
総合的に判断します。

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
そのつど、指示します。

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 桃原　千英子

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
前期の「リテラシー入門Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介
2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定
3	レジュメの書き方・まとめ方
4	文章の引用方法、著作権
5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
6	研究発表の見本（模擬発表）
7	環境意識を育てるためのガイダンス
8	グループ研究発表①
9	グループ研究発表②
10	グループ研究発表③
11	グループ研究発表④
12	グループ研究発表⑤
13	グループ研究発表⑥
14	キャリアガイダンス
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定
16	

【履修上の注意事項】
(1)欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁）
(2)欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 黒澤　亜里子

対象学年 １年
単位区分 必
開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
前期の「基礎演習Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力(プレゼンテーションスキル)、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】
第1回　クラス開き・受講者の確認・教員紹介
第2回　研究発表の方法・テーマ、グループの決定
第3回　レジュメの書き方・まとめ方
第4回　文章の引用方法、著作権
第5回　研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
第6回　研究発表の見本（模擬発表）
第7回　環境意識を育てるためのガイダンス
第8回　グループ研究発表①
第9回　グループ研究発表②
第10回　グループ研究発表③
第11回　グループ研究発表④
第12回　グループ研究発表⑤
第13回　グループ研究発表⑥
第14回　キャリアガイダンス
第15回　まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁）
2)　欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 １年
単位区分 必

開講時期 後期
授業形態 演習
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本授業は、前期のリテラシー入門Ⅰでの学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力(プレゼンテーションスキル)、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。文献検索ガイダンスン、環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介・後期の目標設定
2	研究発表の方法・テーマ、発表の仕方・発表順の決定
3	レジュメの書き方・まとめ方、文章の引用方法・著作権
4	研究発表の見本(模擬発表)
5	研究発表①
6	研究発表②
7	合同ガイダンス（予定）
8	研究発表③
9	研究発表④
10	研究発表⑤
11	研究発表⑥
12	研究発表⑦
13	研究発表⑧
14	キャリアガイダンス（予定）
15	まとめ・到達度の確認、春休みの目標設定、レポート集の作成
16	（予備日）

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡すること。（無断欠席は厳禁）
2)　欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。
3)　授業スケジュールはあくまでも予定であり、変更が生じる場合もある。

【評価方法】
出席状況、発表および課題、クラスへの参加度をもとに総合的に判断します。

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 西岡　敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
前期の「リテラシー入門Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力(プレゼンテーションスキル)、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】
第1回　クラス開き・受講者の確認・教員紹介
第2回　研究発表の方法・テーマ、グループの決定
第3回　レジュメの書き方・まとめ方
第4回　文章の引用方法、著作権
第5回　研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
第6回　研究発表の見本（模擬発表）
第7回　環境意識を育てるためのガイダンス
第8回　グループ研究発表①
第9回　グループ研究発表②
第10回　グループ研究発表③
第11回　グループ研究発表④
第12回　グループ研究発表⑤
第13回　グループ研究発表⑥
第14回　キャリアガイダンス
第15回　まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定

【履修上の注意事項】
1)　欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
2)　欠席回数が全授業回数の1／3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】
評価方法 授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】
テキスト 1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】
テキスト 1回目のオリエンテーションにて説明します。

琉球芸能史

担当教員 −宮城　茂雄

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日本の古典芸能のなかで、沖縄の芸能の存在は重要な位置にある。それは、国が指定する重要無形文化財の指定数からもわかる。
これは、沖縄が琉球という王国を形成していた時代に発達した芸能が、現在まで受け継がれていることによる。
本講義では、現代に伝わる沖縄の芸能の中から古典芸能を中心に講義を進める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	講義説明
2	古典芸能の略史
3	三線音楽と琉歌①
4	三線音楽と琉歌②
5	古典舞踊概説
6	老人踊り
7	若衆踊り
8	女踊り①
9	女踊り②
10	二才踊り
11	雑踊り①
12	雑踊り②
13	沖縄芝居
14	民俗芸能との関係性①
15	民俗芸能との関係性②
16	試験

【履修上の注意事項】
出席日数が３分の２に満たない場合は、原則として単位を認めない。
芸能鑑賞のため、視聴覚教材を使用する講義がある。
レポート提出を２回程度予定している。

【評価方法】
出席・レポート・試験

【テキスト】
テキストはない。プリントを随時配布する。

【参考文献】
『沖縄芸能史話』矢野輝雄著　榕樹社

琉球語会話Ⅰ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れてもらい、沖縄語で表現することへの回路を開いていきたい。現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。本講義では、沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の実質にふれていく。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス・琉球語諸方言の区画
2	自己紹介さびら
3	沖縄語の発音（１）―三母音化―
4	沖縄語の発音（２）―口蓋化―
5	沖縄語の文法（１）―「ガ」と「ヌ」―
6	沖縄語の文法（２）―動詞①―
7	沖縄語の文法（３）―動詞②―
8	沖縄語の文法（４）―形容詞―
9	中間試験
10	沖縄語の文法（５）―係り結び―
11	沖縄語の発音（３）―声門閉鎖音―
12	沖縄語の文法（６）―丁寧語―
13	沖縄語の文法（７）―テ形―
14	沖縄語の文法（８）―過去形・継続形―
15	予備日
16	期末試験

【履修上の注意事項】
登録人数を制限することがある。
出席日数が３分の２に満たない者は原則として単位を与えない。

【評価方法】
中間・期末試験および出席点によって評価する。

【テキスト】
西岡敏・仲原穣［著］、伊狩典子・中島由美［協力］ 2006[2000] 『沖縄語の入門（ＣＤ付き改訂版）　たのしいウチナーグチ』（白水社）

【参考文献】
国立国語研究所［編］1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫［監修］『沖縄の方言　調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

琉球語会話Ⅱ

担当教員 西岡　敏

対象学年 ２年
単位区分 選択
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球語会話Ⅰから継続して、琉球語諸方言のうちの沖縄語首里方言を学んでいく。沖縄語の中身を体得することで、琉球文化を継承する意義についても深めていきたい。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	普通体と丁寧体
2	複文（順接文・逆接文・条件文）
3	規則動詞と不規則動詞
4	第１過去形と第２過去形
5	親族名称
6	疑問の係り結び
7	受身文・使役文
8	敬語
9	中間試験
10	応用①：琉球料理
11	応用②：マチグヮー
12	応用③：昔ばなし
13	琉歌・民謡
14	歌劇・組踊
15	予備日
16	期末試験

【履修上の注意事項】
登録人数を制限することがある。
出席日数が３分の２に満たない者は原則として単位を与えない。

【評価方法】
中間・期末試験および出席点によって評価する。

【テキスト】
西岡敏・仲原穣［著］、伊狩典子・中島由美［協力］ 2006[2000] 『沖縄語の入門（ＣＤ付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）

【参考文献】
国立国語研究所［編］1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫［監修］『沖縄の方言　調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

琉球語学概論

担当教員 −當山　奈那

対象学年 ２年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球列島には約800の伝統的な集落があり、その全ての方言がそれぞれ固有の言語体系を持つといわれている。つまり、どんな小さな集落の方言であっても、日本語や英語のような言語と同様に、文の構成材料としての単語と、それらを文にまとめあげていくきまりとしての文法とがそなわっているのである。これらの伝統的な方言は現在、消滅の危機に瀕している。また、程度の差こそあれ、危機に瀕しているのは、琉球方言のみならず日本語の諸方言も同じである。具体的な事例や多様な方言の言語学的な分析を通して、今、琉球方言を継承することや琉球方言を研究することについて、その必要性や問題点、可能性などを講義のなかで考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（１）
2	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（２）
3	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（３）
4	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（４）
5	琉球語を研究するということ－方言からはじめる言語学－（１）
6	なぜ琉球語（及び日本語方言を含む危機言語）を継承する必要があるのか
7	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（１）
8	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（２）
9	フィールドワークの方法
10	課題報告会（１）
11	課題報告会（２）
12	琉球語を研究するということ－方言からはじめる言語学－（２）
13	琉球語を研究するということ－方言からはじめる言語学－（３）
14	琉球語を研究するということ－方言からはじめる言語学－（４）
15	琉球語を研究するということ－方言からはじめる言語学－（５）
16	期末試験

【履修上の注意事項】
特になし。

【評価方法】
１、期末テストを実施する。
２、学期中間に課題を1回、期末にレポートを提出してもらう。課題、レポートの内容や〆切り、文字数等は講義内で提示する。
３、評価の割合は、課題、レポート７割、テスト２割、出席１割。

【テキスト】
ハンドアウトを配布する。

【参考文献】
工藤真由美、八亀裕美『複数の日本語　方言からはじめる言語学』講談社選書メチエ

琉球語学概論

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ２年
単位区分 選択

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
奄美大島から与那国島に至る島々の連なりは「琉球弧」と呼ばれています。「琉球方言」あるいは「琉球語」とは、この琉球弧の島々で用いられているさまざまなコトバ＝方言の総称です。琉球語は内部の地域差が大きく、驚くほど豊かなバリエーションを示しています。この授業では、琉球各地の方言―奄美、沖縄北部、沖縄南部、宮古、八重山―をその地域ごとに概説していきます。そして講義の後半では、近年メディアでも話題とされている「危機言語」の問題について取りあげ、ディスカッションを行います。琉球語をとりまく現状を知り、その継承の必要性や問題点、可能性について考えていきましょう。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	琉球語とは―方言と言語―
3	奄美のことば
4	沖縄のことば(1)―北部
5	沖縄のことば(2)―中南部(1)
6	沖縄のことば(3)―中南部(2)
7	宮古のことば(1)
8	宮古のことば(2)―多良間方言(1)
9	宮古のことば(3)―多良間方言(2)
10	八重山のことば
11	「危機に瀕した」琉球語
12	琉球語をとりまく諸問題(1)
13	琉球語をとりまく諸問題(2)
14	琉球語をとりまく諸問題(3)
15	ディスカッション
16	期末レポート提出

【履修上の注意事項】
・出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
・予告なしに小レポートの提出を求めることがあります。

【評価方法】
出席＆課題・小レポート(50%)＋期末レポート(５０%)

【テキスト】
講義内において資料を配布します。

【参考文献】
西岡敏・仲原穣[著]、伊狩典子・中島由美[協力]『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社 (2006［2000]、井上史雄他[監修] (2004) 『沖縄の方言―調べてみよう暮らしのことば―』ゆまに書房、呉人恵[編] (2011) 『日本の危機言語－言語・方言の多様性と独自性』北海道大学出版会、など。その他、授業中に適宜紹介します。

琉球語学特講Ⅰ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年
単位区分 選必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業では、J-POPの歌詞や詩、絵本など、日本語共通語で書かれた「作品」を琉球語に翻訳して、発表することを目標とします。まず、ウチナーグチ(首里方言)の過去の翻訳作品をいくつか紹介し、その中によく出てくる表現や文法について説明します。実際に短作文を作る練習なども行います。授業の後半では、グループ、あるいは個人で「作品」を選び、辞書などを利用してウチナーグチに翻訳します。そしてその成果を発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。翻訳作業を通して琉球語と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス、グループ分け、発表の日程決め
2	琉球語概説(1)：日本語と琉球方言(琉球語)、琉球弧の広がり
3	琉球語概説(2)：「ウチナーグチ」とは、琉球方言の多様性
4	翻訳作品の紹介と文法概説(１)
5	翻訳作品の紹介と文法概説(２)
6	翻訳作品の紹介と文法概説(３)
7	翻訳作品の紹介と文法概説(４)
8	翻訳の中間報告と質疑応答(１)
9	翻訳の中間報告と質疑応答(２)
10	翻訳の中間報告と質疑応答(３)
11	翻訳の中間報告と質疑応答(４)
12	作品発表(１)
13	作品発表(２)
14	作品発表(３)
15	作品発表(４)
16	レポート提出

【履修上の注意事項】
・出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
・報告・発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる可能性があります。

【評価方法】
出席＆授業への参加度(40%)＋中間報告(20%)＋作品発表＆レポート(40%)

【テキスト】
資料を配布します。

【参考文献】
国立国語研究所編『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(1963)、内間直仁・野原三義編著『沖縄語辞典』研究社、西岡敏・仲原穣[著]、伊狩典子・中島由美[協力]『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社 (2006 [2000])、など。
その他、授業中で適宜紹介します。

琉球語学特講Ⅱ

担当教員 下地　賀代子

対象学年 ３年
単位区分 選必
開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業では、日本語共通語で文章（意見文など）を書き、その文章を琉球語に翻訳して発表することを目標とします。講義の前半では、まずウチナーグチ（首里方言）で書かれた文章を題材に、その中で用いられている表現や文法事項について概説します。その間、各自で意見文（日本語）の執筆を進めておきます。そして授業の後半で、辞書を利用したり琉球方言を話せる人に習うなどして翻訳作業を進め、その成果を発表します。最後に、発表の際の質疑応答の結果を踏まえつつ、レポートとして提出します。翻訳作業を通して琉球方言と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	首里方言の文法概説（１）、発表順番決め
3	首里方言の文法概説（２）
4	首里方言の文法概説（３）
5	首里方言の文法概説（４）、参考文献（辞書）の紹介、翻訳作業の注意点、日本語原稿の提出
6	中間報告（１）
7	中間報告（２）
8	中間報告（３）
9	中間報告（４）
10	中間報告（５）
11	発表（１）
12	発表（２）
13	発表（３）
14	発表（４）
15	発表（５）
16	レポート提出

【履修上の注意事項】
「琉球語学特殊講義Ｉ」を受講していること（必須）。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

【評価方法】
出席＆授業への参加度（20％）＋中間報告・発表（30％×2）＋期末レポート（20％）

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
授業中に適宜紹介します。

琉球語学入門

担当教員 西岡　敏

対象学年 １年
単位区分 選必

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球諸語はいわゆる危機言語に分類されています。すなわち、今世紀中には滅びて無くなってしまうかもしれないと危惧されています。その一方で、琉球諸語を何とか再生・再活性化させようという動きも盛んになってきています。世代間の断絶を克服し、老年世代の「しまくとぅば」を継承していくための基礎的な知識を修得することを本講では目指します。沖縄語を中心に話を進めますが、宮古・八重山・奄美の言葉についても随時ふれていきます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、講義内容、評価方法の説明
2	琉球列島の島々～島の名前言えるかな？～
3	琉球諸語の区画とユネスコの危機言語
4	独特の発音①～豚の「っわー」の発音できるかな？～
5	独特の発音②～中舌母音の発音できるかな？～
6	指小辞「ぐゎー」って何？
7	ウチナーヤマトゥグチからみる琉球語
8	中間試験
9	沖縄語概説
10	国頭語概説
11	奄美語概説
12	宮古語概説
13	八重山語・与那国語概説
14	琉球語で表現してみよう①
15	琉球語で表現してみよう②
16	期末試験

【履修上の注意事項】
１．３分の１を超える欠席者は、原則として単位を認めません。
２．試験への持ち込みはすべて不可です。

【評価方法】
試験・出席点

【テキスト】
テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。

【参考文献】
『沖縄の方言　調べてみよう暮らしのことば』（井上史雄・吉岡泰夫［監修］、ゆまに書房）。その他、必要に応じて指示します。

琉球文化論

担当教員 西岡　敏

対象学年 １年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
奄美・沖縄・宮古・八重山地域における信仰や言語、風俗、習慣などについて、テキストに沿って説明していく予定です。テキストは文学のものですが、その内容に即して、芸能や芸術、学問、思想など、できるだけ幅広い分野に関して扱っていきます。また、必要に応じてＣＤ・ＤＶＤ・ＶＨＳなどの視聴覚教材を使用します。まず、琉球文化の概要を知ってもらい、最終的には２年次以降の学習に役立てていける授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	講義内容、評価方法の説明
2	身近な方言から琉球文化を考える
3	沖縄の歌謡Ⅰ（ミセゼル・オタカベ)
4	沖縄の歌謡Ⅱ（おもろさうし）
5	奄美の歌謡
6	宮古の歌謡
7	八重山の歌謡
8	琉歌とその背景
9	琉歌の作品鑑賞
10	琉球の劇文学Ⅰ（組踊）
11	琉球の劇文学Ⅱ（沖縄芝居）
12	日記・評論・随筆
13	琉球和文学
14	琉球漢詩文
15	予備日
16	試験

【履修上の注意事項】
１．３分の１を超える欠席者は、原則として単位を認めません。
２．試験への持ち込みはすべて不可です。

【評価方法】
試験・小テスト・出席点などで評価します。

【テキスト】
『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版 2008 増補・改訂版）

【参考文献】
必要に応じて配布します。

琉球文学概論

担当教員 -仲原　伸子

対象学年 ２年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球文学特講Ⅰ

担当教員 −宮城　茂雄

対象学年 ３年
単位区分 選必
開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球文学のなかで戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。
　本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】
１，組踊概説　①誕生とその歴史
　　　　　　　②文学的表現（台詞を中心に）
　　　　　　　③音楽的・舞踊的表現

２、作品研究
　　　　　　　「執心鐘入」台本講読
　　　　　　　　　　　　　演技と音楽

　　　　　　　「二童敵討」台本講読
　　　　　　　　　　　　　演技と音楽

　　　　　　　「花売の縁」台本講読
　　　　　　　　　　　　　演技と音楽

【履修上の注意事項】
出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】
出席・レポート・期末試験

【テキスト】
テキストはナシ。随時プリントを配布する。

【参考文献】
矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球文学特講Ⅱ

担当教員 −宮城　茂雄

対象学年 ３年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
琉球文学のなかで戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。
　本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】
１，組踊概説　①誕生とその歴史
　　　　　　　②文学的・音楽的・舞踊的表現

２，作品研究
　「万歳敵討」台本講読
　　　　　　演技と音楽

　「雪払い」　台本講読
　　　　　　演技と音楽

　「銘苅子」台本講読
　　　　　　演技と音楽

【履修上の注意事項】
出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を２回程度予定している。

【評価方法】
出席・レポート・期末試験

【テキスト】
テキストはナシ。随時プリントを配布する。

【参考文献】
矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球文学を読むⅠ

担当教員 仲原　伸子

対象学年 ２年
単位区分 選必

開講時期 前期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球文学を読むⅡ

担当教員 仲原　伸子

対象学年 ２年
単位区分 選必

開講時期 後期
授業形態 一般講義
単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】